

# 第24回 尾瀬国立公園協議会（2025(令和7)年度)

日 時：令和8年3月4日（水）

15：00～17：00

会 場：関東地方環境事務所会議室  
＋ウェブ会議

## 次 第

### 議事

- (1) 「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況の総括
  
- (2) 「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組
  1. 尾瀬国立公園利用アクションプランの進捗状況について（尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会）
  2. 持続可能な歩道のあり方検討について（尾瀬国立公園歩道のあり方検討会）
  3. 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策について（尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会）
  4. 新たな利用者負担による公園維持管理手法等の検討実証について（ぐんま尾瀬入域協力金実証実験）（群馬県）
  
- (3) その他

**【配布資料】**

- 資料 1-1 「新・尾瀬ビジョン」整理表 2025（概要版）
- 1-2 「新・尾瀬ビジョン」整理表 2025
- 1-3 片品村産ニホンジカの食肉としての有効活用について（尾瀬ジビエパンフレット）
- 1-4 「三井物産の森」について
- 1-5 鳩待山荘・休憩所のリニューアルについて
- 資料 2-1-1 尾瀬国立公園利用アクションプランの進捗状況について
- 2-1-2 （参考）取組プログラムの実施状況について（個別の取組紹介）
- 2-2 持続可能な歩道のあり方検討について
- 2-3 尾瀬国立公園におけるニホンジカ対策について
- 2-4 新たな利用者負担による公園維持管理手法等の検討実証（ぐんま尾瀬入域協力金実証実験）について
- 参考資料 尾瀬国立公園協議会設置要綱

第24回尾瀬国立公園協議会 出席者名簿

※敬称略

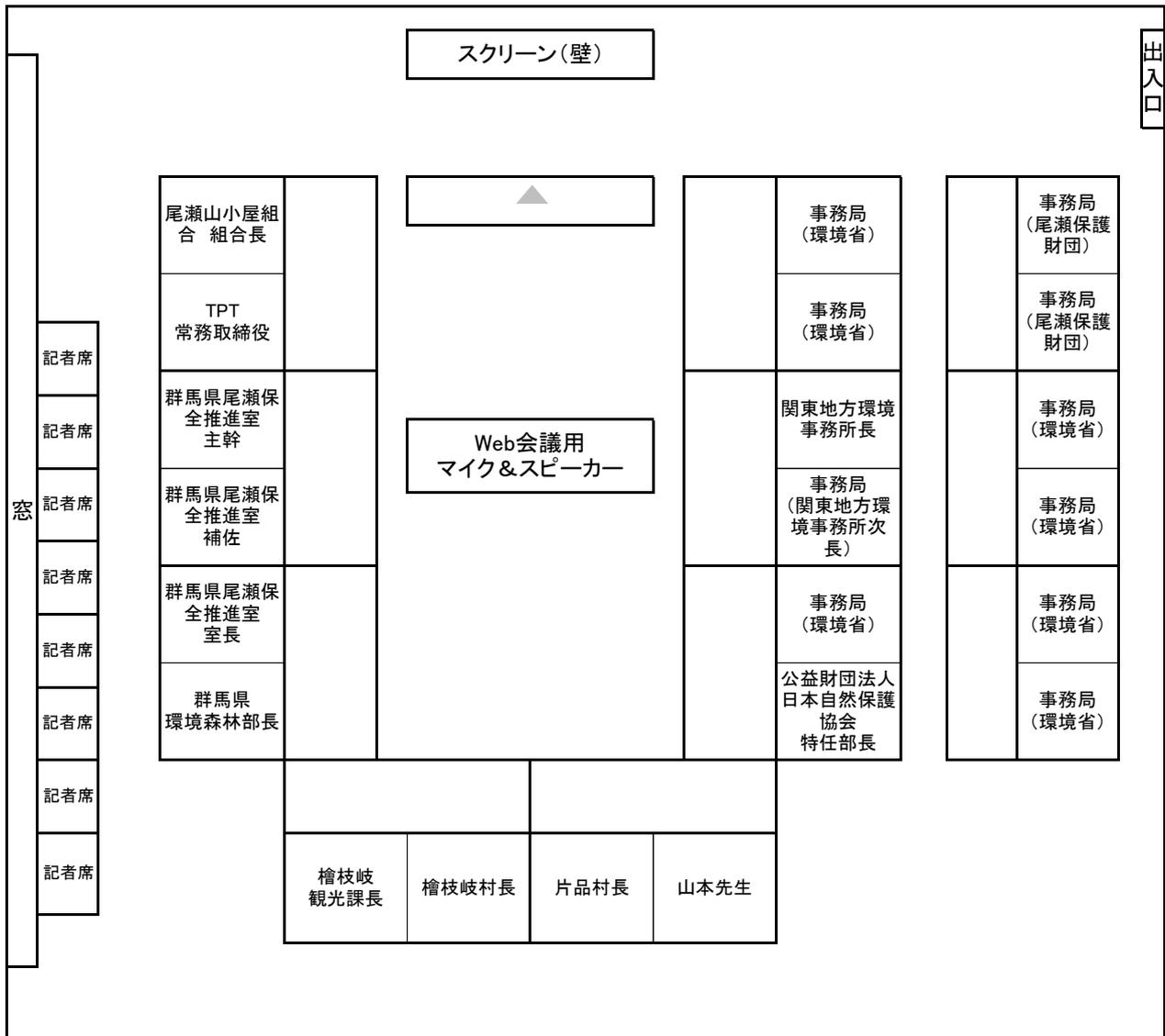
	構成員	氏名	出欠	方法	随行
1	環境省関東地方環境事務所長	庄子 真憲	出席	対面	
2	林野庁関東森林管理局計画保全部長	伊奈 康治	出席	web	関東森林管理局 計画課長 笹木 征道 自然再生指導官 黒沢 幸一 会津森林管理署南会津支署 支署長 金子 友次 総括事務管理官 埴 栄一 総括森林整備官 櫻井 勝
3	福島県生活環境部長	宍戸 陽介	代理 自然保護課 豊島直美主幹兼副課長	web	
4	栃木県環境森林部長	齋藤 利也	代理 自然環境課 松木愛子主任	web	
5	群馬県環境森林部長	永井 浩二	出席	対面	尾瀬保全推進室 室長 大竹 薫(対面) 補佐 西嶋 弘満(対面) 主幹 小平 純(対面)
6	新潟県環境局長	茂野 由美子	代理 環境対策課 五十嵐康紀係長	web	同課主査 渡辺 圭太
7	檜枝岐村長	平野 信之	出席	対面	観光課長 星 公二
8	南会津町長	渡部 正義	代理 館岩総合支所振興課 小勝秀勝課長	web	
9	日光市長	瀬高 哲雄	代理 環境森林課 松本健佑主事	web	
10	片品村長	梅澤 志洋	出席	対面	むらづくり観光課長 星野 一忠(web) 同課主事 金子 友也(web)
11	魚沼市長	内田 幹夫	代理 生活環境課 森山豪雪係長	web	同課主事 乾 瑛樹
12	公益財団法人尾瀬保護財団	事務局長 大竹 薫	出席	対面	
13	三井物産株式会社サステナリティ経営推進部 グローバル環境室	代理 三井物産フォレスト 株式会社業務部 戦略企画室 阿部 知哉	出席	web	同室 細島 彩起子
14	東京電力リニューアブルパワー株式会社水力部 水利・尾瀬グループ	グループマネージャー 甘利 修司	出席	web	同グループ 尾瀬チームリーダー 佐野 京子 課長補佐 篠原 哲也 東京電力ホールディングス株式会社 ESG推進室長 小暮 義隆
15	東京パワーテクノロジー株式会社	常務取締役 森尻 謙一	出席	対面	
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	代理 檜枝岐村 観光課長 星 公二	出席	対面	
17	南会津町観光物産協会館岩支部		欠席		
18	一般社団法人日光市観光協会 湯西川・川俣・奥鬼怒支部		欠席		
19	一般社団法人片品村観光協会	専務理事 倉田 剛	出席	web	
20	一般社団法人魚沼市観光協会	事務局長 福井 隼次	出席	web	
21	尾瀬山小屋組合 組合長	平石 忠一	出席	対面	
22	尾瀬山小屋組合 副組合長	平野 陽一	欠席		
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会		欠席		
24	公益財団法人日本野鳥の会 栃木県支部		欠席		
25	片品山岳ガイド協会	会長 館山 美和	出席	web	
26	新潟県自然観察指導員の会	顧問 加瀬 由紀子	出席	web	
27	公益財団法人日本自然保護協会	自然のちから推進部特 任部長 大野 正人	出席	対面	
28	尾瀬ガイド協会	会長 石塚 照久	出席	web	同協会事務局長 桂田 直樹
29	横浜国立大学 名誉教授	加藤 峰夫	出席	web	
30	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	山本 清龍	出席	対面	

事務局

	所属	役職・氏名	方法
1	関東地方環境事務所	次長 宮澤 泰子	対面
2	関東地方環境事務所 国立公園課	課長補佐 平井 泰	対面
3		自然保護官 後藤 俊矢	対面
4		国立公園管理官 塩野目 望	対面
5	関東地方環境事務所 檜枝岐自然保護官事務所	生態系保全等専門官 古濱 主税	対面
6		自然保護官補佐 奥 美絵	web
7	関東地方環境事務所 片品自然保護官事務所	自然保護官 八尋 聡	対面
8		国立公園利用企画官 中山 健士	対面
9		自然保護官補佐 長谷川 蘭	対面
10	公益財団法人尾瀬保護財団 企画課	企画課長 大槻 純平	対面
11		主任 宇野 翔太郎	対面

# 第24回尾瀬国立公園協議会 座席表

令和8年3月4日(水)  
 関東地方環境事務所 会議室



## 「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について ～「新・尾瀬ビジョン」整理表 2025（概要版）～

※「★」は議事（1）（2）で報告、紹介

みんなの尾瀬 ～尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう～

### 取組状況のレビュー

様々な取組を通して尾瀬の認知度向上が図られるとともに、インバウンド向け事業等により国内外で尾瀬のファン獲得に向けた取組が推進されている。また、利用者が参加する登山道整備ツアーのほか、新たな利用者負担の検討が始まるなど、多様な主体の連携による持続可能な尾瀬の実現に向けた取組が見られる。

尾瀬の普遍の価値をリアルな体験だけでなく様々な媒体で発信しながら、課題解決のために多様な主体の参画や資金的サポートを充実させる取組が推進されており、尾瀬を愛する輪が広がろうとしている。

### 具体的な取組事例

- 環境省など：「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」に基づく試行的取組として、尾瀬ヶ原・見晴地区の尾瀬小屋と連携し、管理歩道の木道補修ボランティアツアーを実施（★）
- 福島県：燧ヶ岳・見晴新道をフィールドとした利用者参加型の登山道整備ツアーを実施（★）
- 群馬県：新たな利用者負担制度（入域協力金）の導入に係る検討を開始（★）
- 魚沼市観光協会：台湾の旅行会社における会員向け旅行誌で尾瀬特集を掲載したほか、訪日外国人向けメディアプラットフォーム「MATCHA」への記事掲載を実施
- 尾瀬保護財団：持続可能な尾瀬の実現を目指し、保護と利用の好循環や多様な主体との連携などをテーマに、東京国際フォーラムで「財団設立 30 周年記念フォーラム」を開催

みんなを守る ～かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう～

### 取組状況のレビュー

「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」の改訂に加え、捕獲したニホンジカの食肉としての有効活用、地域住民等と協力した外来種駆除作業の実施など、引き続き関係者と連携した取組が推進されている。

また、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を認定する「自然共生サイト」に田代山周辺が申請されているほか、尾瀬に関する研究の推進に向けた意見交換の実施などが行われている。

さらに、地域住民が尾瀬の価値を再認識するための取組や、かつて栄えた根羽沢鉦山跡を尾瀬の歴史資源の一つとして観光コンテンツ化を図ることで保存・活用する取組が進められている。

尾瀬本来の生態系の維持・回復に加え、尾瀬の歴史資源を保全する取組が実施されており、かけがえのない尾瀬をみんなで次代に引き継ぐための取組が進んでいる。

### 具体的な取組事例

- 環境省など：「ニホンジカ対策方針」の改訂等、構成員と連携したシカ対策を推進（★）
- 福島県：福島県尾瀬保護調査会による尾瀬ヶ原・下田代におけるオランダガラシ除去に参加
- 片品村など：片品村で捕獲したニホンジカの食肉としての有効活用の取り組み（★）
- 片品村：村内事業者と連携した特定外来生物「オオハンゴンソウ」の除去作業を実施  
尾瀬に行く機会創出を目的に、「片品村民限定尾瀬乗合バス乗車券無料事業」を実施
- 尾瀬保護財団：尾瀬に関する研究の現状や課題等を把握するための意見交換会を実施

- 三井物産(株)：田代山を含む社有林を「自然共生サイト」に申請 (★)
- 東京パワーテクノロジー(株)：尾瀬の歴史の一つである根羽沢鉱山のツアーを実施。

みんなで楽しむ ～自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたい尾瀬にしましょう～

### 取組状況のレビュー

木道などの利用施設の老朽化や登山道の荒廃が進んでいる中、歩道管理者による整備・維持管理に関する方針が検討されているほか、利用者が実際に整備に参加する整備ツアー・イベントの実施、近自然工法の考え方をういた登山道整備事業の実施などが進められている。

また、外国人を主な対象とした尾瀬ならではの旅行商品の造成やガイド事業者の育成を通じたエコツーリズムの推進が図られているほか、尾瀬を支える人々にフォーカスした聞き書き集の作成や山小屋等のリニューアルによる滞在環境整備が行われている。

尾瀬の保護と利用の両立を図りながら、訪れた利用者が尾瀬の魅力を知り、また安全で快適に楽しめるような利用環境を整備することで、みんなが訪れたい尾瀬にするための取組が進んでいる。

### 具体的な取組事例

- 環境省：尾瀬地域を支える人々にフォーカスした聞き書き集「国立公園ものがたり」を作成
- 環境省・尾瀬ガイド協会：認定ガイドに対して尾瀬管理に関する講習会を開催予定
- 環境省：歩道のあり方検討会で、歩道の整備・維持管理に関する基本方針（案）の作成 (★)
- 檜枝岐村：尾瀬小屋主催の木道修繕ボランティアイベントに協賛して栈木を提供 (★)
- 片品村：三条印刷(株)からの寄付を活用し、大清水～ノ瀬間の旧道の整備を実施
- 東京パワーテクノロジー(株)：鳩待休憩所を「はとまちベース Cafe & Shop」に、鳩待山荘を「LUCY 尾瀬鳩待」としてリニューアルオープン (★)
- 魚沼市観光協会：水の学び旅「うおぬま水の回廊」のファミトリップを海外旅行会社を対象に開催

# 新・尾瀬ビジョン整理表2025

みんなの尾瀬	国		県				市町村				財団	土地所有者			観光関係者					地元団体			NGO等		具体的な取組事例				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		25	26	27	
<b>みんなの尾瀬</b> 凡例 達成度(自己評価) ◎…当初計画以上の取組実施、達成状況100%以上 ○…当初計画を概ね達成、達成状況80-100% △…当初計画の一部又は全部が未達成、達成状況80%未満 …該当する取組がない 赤字…今年度新たな取組が行われたもの 空欄…未回答	環境省関東地方環境事務所	林野庁関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	尾瀬保護財団	三井物産	東京電力RP	東京PT	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会館岩支部	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護連絡協議会	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会	具体的な取組事例 ※構成員から回答いただいた内容のうち、 ①達成度の自己評価が◎であった取組 ②今年度新たに行われた取組 について抜粋して記載している	
<b>視点① 愛される尾瀬づくり</b>																													
<b>■尾瀬のファンづくり</b> ・新たな利用者の獲得 ・利用者満足度の向上によるリピーターの獲得 ・外国人も利用しやすい尾瀬のあり方の検討 ・障害者をはじめ様々な人のニーズへの対応	○	-	◎	-	○	-	○	○	-	○	○	○	-	△	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	(福島県)見晴新道の登山道整備を行うツアーを開催した(計19名参加)。(魚沼市観光協会)【新規】尾瀬トレッキングを含む、2泊3日の水の学び旅「うおぬま水の回廊」のファミトリップを海外旅行会社を対象に開催し、受入れにどのような配慮が必要かフィードバックを行った。	
<b>■尾瀬で学ぶ機会の拡大</b> ・学校団体による尾瀬での環境教育の推進 ・企業の研修など、尾瀬を活用する新たな機会の拡大	○	-	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	◎	◎	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	(東京電力RP)尾瀬戸倉の森のブナの間伐作業や大清水湿原における水芭蕉プロジェクトへの参加を通じた弊社社員の尾瀬に対する意識向上。(東京PT)学校・団体・企業に対し、環境教育での尾瀬活用を推進。(片品村観光協会)教育旅行、企業研修等として学び・トリートの推進。	
<b>視点② モデルとなる尾瀬づくり</b>																													
<b>■先進的な取り組みの推進</b> ・地球環境に配慮した取り組みの推進 ・全国的な共通課題に対する解決策の模索 ・他地域の成功事例の収集や応用	◎	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	(環境省)「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」に基づく試行的取組として、見晴地区の尾瀬小屋と連携し、檜枝岐・片品村とも協力しながら木道補修ツアー及び駆除したシカ肉の有効活用に関する取組を実施。(片品村)尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会を中心に、片品村のゴミを減らすことを目的に「ダンボールコンポスト講習会」を実施。(片品村観光協会)カーボンニュートラルの取り組みを実施。
<b>視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり</b>																													
<b>■多様な主体の参加と連携促進</b> ・利用者や地域住民が管理運営に関われる機会の拡大 ・地域間が連携した一体的で広域的な取り組みの推進 ・すでにある仕組みを有効活用した関係者の意見交換の推進 ・利用者や企業などのサポーターによるボランティアとしての活動への支援 ・山小屋やビジターセンターなど現場からの声を対策に活かす仕組みの構築	◎	-	○	-	○	○	○	○	-	○	-	○	○	◎	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	◎	(環境省)同上。 (福島県)見晴新道の登山道整備を行うツアーを開催した(計19名参加)。(檜枝岐村)尾瀬小屋主催の木道修繕ボランティアイベントに協賛して機材を提供。(尾瀬保護財団)持続可能な尾瀬の実現を目指し、保護と利用の好循環や多様な主体との連携などをテーマに、東京国際フォーラムで「財団設立30周年記念フォーラム」を開催。(東京PT)山小屋利用者・従業員アンケートを活用した業務改善の推進。(尾瀬ガイド協会)外来種駆除作業、登山道整備事業の継続。	
<b>■担い手の育成</b> ・尾瀬を愛する次代の獲得と育成 ・研修などによる知識と技術を学ぶ機会の拡大	◎	-	○	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	◎	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	◎	(環境省)同上。 (東京PT)山小屋利用者・従業員アンケートを活用した業務改善の推進。(尾瀬ガイド協会)尾瀬認定ガイドの育成、検定試験、研修の実施。	
<b>■資金的支持の充実</b> ・尾瀬の維持管理に必要な資金の現状把握 ・利用者負担のあり方の検討 ・活動への寄付などの呼びかけ	○	-	-	-	○	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	(群馬県)新たな利用者負担制度(入域協力金)の導入にかかる検討を開始し、また、企業版ふるさと納税の寄附などの取組を実施した。(尾瀬保護財団)群馬県業務を受託し、新たな利用者負担のあり方を検討。
<b>視点④ 情報の効果的・効率的な発信</b>																													
<b>■認知度の向上</b> ・テレビや雑誌などメディアとの連携による情報の発信 ・SNSなどのインターネットの活用 ・情報を届けたいターゲットに応じた発信方法や発信内容の明確化 ・歴史・伝統・文化を含めた尾瀬一帯にある多様な魅力の総合的な発信	○	-	○	-	○	○	○	○	-	○	○	○	◎	○	◎	○	○	-	○	○	○	-	○	-	-	-	○	(環境省)尾瀬国立公園公式Instagramを開設。 (福島県)登山雑誌に会津駒ヶ岳及び周辺の立ち寄りスポットの紹介記事を掲載。 (三井物産)田代山を含む三井物産社有林を自然共生サイトに申請。現在結果待ち。 (東京PT)HPやSNS等を活用した尾瀬情報の発信。 (魚沼市観光協会)新たに双葉社「Soto」にて尾瀬特集を掲載いただいた。新たに台湾の旅行会社「飛鳥国際旅行社」の会員向け旅行誌にて尾瀬特集を掲載いただいた。新たに訪日外国人向けメディアプラットフォーム「MATCHA」への記事掲載を行った。	
<b>■情報の提供</b> ・統一的で分かりやすい情報の発信方法の検討 ・ウェブサイトなどでの情報公開の推進	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	△	○	-	-	-	-	-	○		
<b>視点⑤ 的確な分析</b>																													
<b>■基本情報の収集</b> ・尾瀬の強みと弱みの分析 ・利用者の利用実態に関する情報の収集 ・尾瀬を取り巻く状況の変化の把握	○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	○	◎	-	○	○	○	-	-	○	△	-	○	-	○	-	-	○	(環境省)歩道のあり方検討の一環で、歩道の利用状況調査等を実施。(尾瀬保護財団)群馬県事業の一環で尾瀬利用者の意識等を把握するアンケート調査を実施。(片品村)本年から尾瀬並びに片品村全域のSWOT分析を実施。	

# 新・尾瀬ビジョン整理表2025

みんなで守る	国		県				市町村					財団	土地所有者			観光関係者					地元団体					NGO等		具体的な取組事例
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
<b>みんなで守る</b> 凡例 達成度(自己評価) ◎…当初計画以上の取組実施、達成状況100%以上 ○…当初計画を概ね達成、達成状況80-100% △…当初計画の一部又は全部が未達成、達成状況80%未満 -…該当する取組がない 赤字…今年度新たな取組が行われたもの 空欄…未回答	環境省関東地方環境事務所	林野庁関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	尾瀬保護財団	三井物産	東京電力R.P	東京PT	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会館岩支部	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護指導員会 福島県連絡協議会	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会	具体的な取組事例 ※構成員から回答いただいた内容のうち、 ①達成度の自己評価が◎であった取組 ②今年度新たに行われた取組 について抜粋して記載している
<b>視点① 自然豊かな尾瀬づくり</b>																												
<b>■これまでの取組の継承</b> ・これまでの取組の継続と改善 ・尾瀬における自然保護の歴史の継承	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	○	
<b>■貴重な自然環境の保護</b> ・尾瀬の自然の特異性や価値への理解の促進 ・人の活動が与える自然への負荷の最小限化 ・乾燥化や樹林化から湿原生態系や景観を守るための検討	○	○	-	-	○	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	(三井物産)田代山を含む三井物産社有林を自然共生サイトに申請。現在結果待ち。
<b>■植生の荒廃対策</b> ・至仏山や会津駒ヶ岳を始めとする山岳地帯、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺における荒廃対策の実施 ・ニッコウキスゲなど尾瀬を代表する植生の回復にむけた取組の実施	○	○	△	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	○	◎	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	(福島県)燧ヶ岳登山線において、一般ボランティアを交え、現地材を活用した登山道整備ツアーを2回実施(燧ヶ岳登山線の木道工事は次年度に実施)。(東京PT)アヤマ平の植生回復作業を実施。
<b>■外来植物対策</b> ・侵入状況の把握と効果的な防除方法の検討 ・地域住民や企業と連携した防除活動の実施	○	-	○	-	○	-	○	○	-	◎	-	○	-	○	◎	○	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	○	(福島県)下田代・赤田地域のオランダガラシの駆除作業に参加。(片品村)村内の事業者と協力し、オオハンゴンソウ駆除を実施。(東京PT)鳩待休憩所のリニューアルに伴い、至仏登山道入り口に設置してある種子落としマットをの交換を実施した。
<b>視点② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり</b>																												
<b>■歴史・伝統・文化の保全</b> ・歴史・伝統・文化に関する地域の宝の再認識、掘り起こし、活用	○	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	○	◎	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	(片品村)尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会を中心に、村民が尾瀬に行く機会創出を目的に、「片品村民限定尾瀬乗合バス乗車券無料事業」を実施。(東京PT)関係各所と調整し、根羽沢鉾山のツアーを実施。
<b>■新しい歴史・伝統・文化の創造</b> ・それぞれの地域が持つ「強み」を活かした伝統・文化の深化、発信	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	△	-	-	-	○	-	-	-	
<b>視点③ 野生動物との軋轢の解消</b>																												
<b>■ニホンジカによる被害の低減</b> ・科学的知見に基づく総合的なシカ管理方針の作成 ・優先して守りたいエリアマップの作成 ・効果的な防除対策や捕獲手法の確立 ・効果検証のためのモニタリング手法の確立 ・広域連携による越冬地での捕獲の強化 ・捕獲したニホンジカの有効活用	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	-	○	◎	○	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	(環境省、林野庁、各県、各市町村、東電RP、山小屋組合、尾瀬保護財団)広域協議会にて尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針の改定を行い、植生回復等の数値目標を設定。環境省にて植生調査地点、指標種等の調査を実施。(環境省)尾瀬ヶ原における効率的なシカ捕獲手法の検討を開始。(栃木県)大型配水管を利用した簡易的な捕獲個体処理施設(減容化施設)の設置(足尾地区:2基、奥日光地区:2基)。(片品村)尾瀬かたしなゼロカーボンフォーラムにて尾瀬の鹿問題に関するトークイベントを実施。片品村にて駆除したニホンジカを食肉として出荷できるように出荷制限解除の取り組みを実施。(東京電力R.P)尾瀬山ノ鼻・研究見本園でのシカ柵設置・撤去作業ボランティアへ参加することで自然環境に配慮した取組の推進に寄与した。
<b>■ツキノワグマとの共存</b> ・ツキノワグマの生態や対応方法についての利用者への普及啓発 ・巡視やクマ鐘の設置などの遭遇事故防止対策	○	-	○	◎	○	○	○	-	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	(栃木県)クマに出会わないための取組、出会った際の対応等についてのチラシ、英語、中国語等4カ国語の注意喚起チラシを観光センター等で観光客向けに配布。小中学校に鳥獣の専門家(鳥獣管理士)を派遣し、クマに出会わないための対策や出会った際の対応の講座を実施。(尾瀬保護財団)ツキノワグマ対策協議会事務局として啓発パンフレットの改訂・増刷。
<b>■新たな獣害への対応</b> ・研究者や猟友会からの動向の確認と関係者間の情報共有	○	-	○	◎	○	-	○	-	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	(栃木県)那須岳及び八溝山周辺地域において糞塊密度調査及びセンサーカメラ調査による生息密度調査、GPSIによる行動追跡調査を実施の実施等。
<b>視点④ 科学的知見に基づく保全</b>																												
<b>■調査研究の促進</b> ・保全活動の計画や実施に必要な科学的知見の収集と活用 ・研究者と公園管理者の情報共有や意見交換の推進 ・継続可能な自然環境モニタリングシステムの構築	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(尾瀬保護財団)尾瀬に関する研究の現状や課題等を把握するための意見交換会を実施。

# 新・尾瀬ビジョン整理表2025

みんなで楽しむ	国		県				市町村					財団	土地所有者			観光関係者					地元団体			NGO等		具体的な取組事例			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		26	27	
<b>みんなで楽しむ</b> 凡例 達成度(自己評価) ◎…当初計画以上の取組実施、達成状況100%以上 ○…当初計画を概ね達成、達成状況80-100% △…当初計画の一部又は全部が未達成、達成状況80%未満 …該当する取組がない <b>赤字</b> …今年度新たな取組が行われたもの 空欄…未回答	環境省関東地方環境事務所	林野庁関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	尾瀬保護財団	三井物産	東京電力R.P	東京PT	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会館岩支部	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	福島県連絡協議会	尾瀬保護指導員	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会	※構成員から回答いただいた内容のうち、 ①達成度の自己評価が◎であった取組 ②今年度新たに行われた取組 について抜粋して記載している
<b>視点① 魅力あふれる尾瀬づくり</b>																													
<b>■尾瀬の魅力向上</b> ・地域の宝について学び再発見する機会の拡大 ・新たな視点による地域の宝の発掘	◎	-	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	△	-	-	○	(環境省)尾瀬地域を支える人々にフォーカスした聞き書き集「国立公園ものがたり」を作成。 (片品村)尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会を中心に、村民が尾瀬に行く機会創出を目的に、「片品村民限定尾瀬乗合バス乗車券無料事業」を実施。	
<b>視点② 幅広い楽しみ方の検討</b>																													
<b>■多様な利用方法の検討</b> ・新たな尾瀬の楽しみ方の検討や意見交換 ・地域特性に応じた残雪期や冬期利用のあり方の検討	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	○	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
<b>■エコツーリズムの推進</b> ・質の高い認定ガイドなどエコツーリズムに関わる事業者の育成 ・地域の宝を活かした尾瀬ならではの旅行商品や体験プログラムの作成 ・認定ガイド利用を促進する仕組みの構築 ・旅行エージェント等と連携したエコツーリズムの促進	◎	-	○	-	○	-	○	-	-	○	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	◎	(環境省・尾瀬ガイド協会)利用者に自然や文化だけでなく、尾瀬の管理やその課題についても知ってもらうため、認定ガイドに対して、尾瀬の管理に関する講習会を実施(予定)。 (福島県)見晴新道の登山道整備を行うツアーを開催し、道中において尾瀬ガイドによる自然解説を実施。 (魚沼市観光協会)【新規】尾瀬トレッキングを含む、2泊3日の水の学び旅「うおぬま水の回廊」のファムトリップを海外旅行会社を対象に開催し、受入れにどのような配慮が必要かフィードバックを行った。 (尾瀬ガイド協会)認定ガイド研修を各支部において実施 本部更新講習の実施、地域産業と組み合わせたツアーの実施。
<b>■地域における利用の役割分担</b> ・地域特性等に応じた、対象とする利用者層や利用スタイルの提案 ・利用者層や利用スタイルに応じた利用施設のあり方の検討	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	△	-	-	-	○		
<b>■滞在型・周遊型利用の促進</b> ・尾瀬を楽しむモデルコースの提案 ・朝夕や星空など泊まらないと体験できない魅力の発信 ・季節や場所ごとの魅力の発信による利用の分散化	○	-	○	-	-	○	-	-	○	○	○	○	○	◎	○	-	-	○	○	○	○	○	-	△	-	-	◎	(福島県)登山雑誌に会津駒ヶ岳及び周辺の立ち寄りスポットの紹介記事を掲載。 登山雑誌オンラインサイト会員へ田代山の紹介記事をメールマガジンで配信。 (東京PT)鳩待休憩所を「はとまちベース Cafe & Shop」、鳩待山荘をリニューアルし「LUCY尾瀬鳩待」としてリニューアルオープンした。 (尾瀬ガイド協会)旅行会社へのコース等の提案、ツアー参加者への宿泊時の楽しみ方のアナウンス、お客様にはミズバショウ時期以外(特に秋の尾瀬)の魅力伝達と利用推奨。	
<b>視点③ 楽しむための土台づくり</b>																													
<b>■安全対策</b> ・事故や遭難を防止するための危険箇所の整備や利用者への普及啓発 ・事故や遭難情報の収集と共有 ・救助体制の整備や今後のあり方の検討	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	○	-	○	◎	○	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	○	(環境省)老朽化していた木道(尾瀬ヶ原・原の川上川橋付近、竜宮〜見晴間)の取り換え工事を実施。尾瀬小屋及び檜枝岐村と連携し、見晴〜尾瀬沼の木道の補修を実施。 (東京PT)老朽化した木道の計画的な取り換えや転倒防止の滑り止め板の取り付けの実施。	
<b>■施設の整備</b> ・荒れた登山道や標識類などの整備 ・長寿命化などトータルコスト低減の検討や実施 ・道の駅など既存施設の情報発信拠点としての有効活用	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	○	-	○	◎	○	-	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	◎	(環境省)同上。尾瀬国立公園歩道のあり方検討会において、歩道の整備・維持管理に関する基本方針の案を作成。 (福島県)見晴新道の登山道整備を行うツアーを開催(計19名参加)。 (檜枝岐村)尾瀬小屋主催の木道修繕ボランティアイベントに協賛して機材を提供。 (片品村)三条印刷株式会社様から寄付していただいた資金を活用し、大清水〜ノ瀬間の旧道の整備を実施(作業は一般社団法人尾瀬登山道整備部に依頼)。 (東京PT)滑り止め板の代替物としてゴムマットを設置。 (尾瀬ガイド協会)登山道整備ツアーの実施。	
<b>■ルール・マナーの検討と普及啓発</b> ・携帯電話などの通信端末やドローン、冬期利用についてのルールの検討 ・尾瀬を楽しむ上でのルール・マナーの普及啓発 ・入山口やインターネットで活用した入山前後における普及啓発	○	-	○	-	-	○	○	-	○	○	○	-	○	◎	○	-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	○	(東京PT)トイレチップ協力金の呼びかけの看板を多言語表記で表示。	
<b>■望ましい交通アクセスの検討</b> ・滞在型や周遊型利用の促進を意識したアクセスのあり方の検討 ・利用者が少ない地域へのアクセスの向上 ・尾瀬と他の地域を結ぶアクセスの連携強化 ・分かりやすく利用しやすい案内や誘導	○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	○	-	○	○	○	-	-	○	△	○	○	-	-	-	-	-	○		

## 尾瀬ジビエ

シカの食害により、尾瀬の豊かな自然と尾瀬の麓片品村の農産物が被害を受けています。

被害を減らすため、シカの捕獲を行っています。捕獲したシカを無駄にすることなくジビエとして有効活用しています。

尾瀬（片品村）の豊かな自然と農作物を守るため、村内で捕獲したシカの命を無駄にすることなく、ジビエとして有効活用しています。

## 尾瀬のジビエを

## 安心・安全に

## 皆様のもとへご提供。



各種鹿肉ブロック・鹿肉スライス・鹿肉ドッグフード

ジビエの取組についての問合せ先

### 片品村役場 農林建設課

〒378-0498 群馬県利根郡片品村大字鎌田 3967-3

☎ 0278-58-2113

### 利根沼田農業事務所

〒378-0031 群馬県沼田市薄根町 4412

☎ 0278-23-0188

シカ肉の販売店・飲食店についての問合せ先

### 株式会社 きりん 箕輪フーズ（食肉処理加工施設）

〒370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝 280-8

☎ 027-360-7057

☎ 090-3243-4891（増田）

mail kirinfoods@sepia.plala.or.jp

H P <https://kirin-foods.com/>



# 尾瀬ジビエ

## OZE GIBIER



## ジビエのススメ

～自然との共生～



片品村

# ジビエとは？



ジビエとは捕獲した野生鳥獣の食肉のことです。昔からジビエが盛んであったフランスの「gibier」に由来します。ジビエとしてよく知られているのはシカやイノシシですが、**現在、群馬県内で食用のジビエとして販売されているのは、ニホンジカのみです。**

## シカ肉の特長

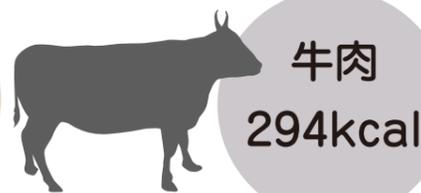
- 高タンパク  
(なんと牛肉の約1.4倍)
- 低脂肪  
(ヘルシー! 脂質は牛肉の約1/6以下)
- ビタミンB2や鉄分などが豊富  
(栄養満点! 鉄分は牛肉の約2倍)



## シカ肉栄養価比較

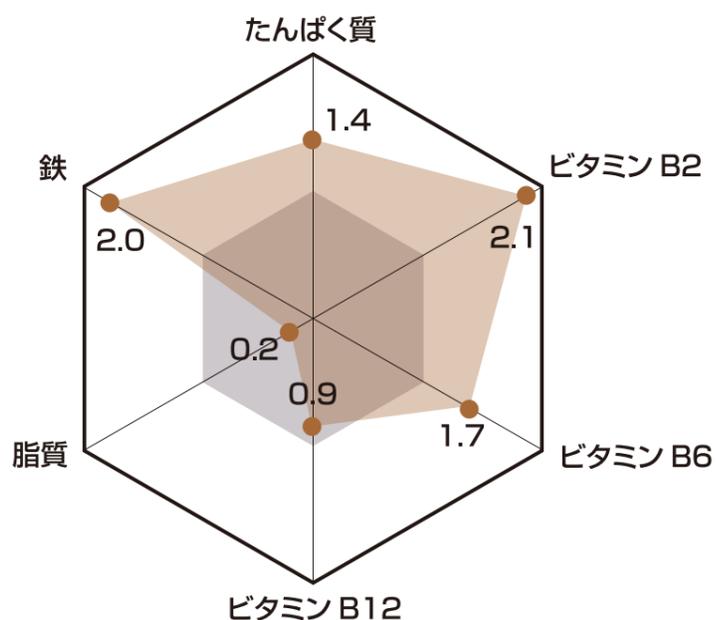


ニホンジカ 赤肉・生  
(100gあたり)



和牛肉 サーロイン赤肉・生  
(100gあたり)

シカ肉/牛肉の比較 (牛肉を1とした場合)



出典：文部科学省「日本食品標準成分表 2020年版（八訂）」

## ジビエ4つの魅力

### ①ボディメイクに!

不足しやすいビタミン・ミネラルが多様に含まれています。

### ②丈夫な体づくりに!

豊富な亜鉛が免疫細胞を活性化する働きがあります。

### ③疲労回復に!

代謝に関わるビタミンやミネラルが含まれています。

### ④美肌になれる!?

ビタミンEという抗酸化成分が含まれ、脂質の酸化を防ぐ働きがあります。

出典：農林水産省「知って!楽しむ!ジビエ (令和6年2月)」

## ジビエレシピ

### 鹿肉の唐揚げ



みんな大好きな唐揚げを鹿肉で作りました。赤身のうま味をぎゅっと噛みしめながらもさっぱりと味わえるのは、鹿肉の魅力です。

#### 材料・分量 (4人分)

鹿肉 (モモ、カタなど)	400g	おろし生姜	1片分
無糖ヨーグルト	50g	おろしにんにく	1片分
醤油	30ml	片栗粉	適量
みりん	30ml	揚げ油	適量
酒	30ml		

#### 作り方

- ① 鹿モモ肉400gとヨーグルト50gを混ぜ合わせて、1時間冷蔵庫で漬け込む。
- ② ①に醤油、みりん、酒各30ml、生姜、にんにく各1片分を加え、さらに30分漬け込む。
- ③ ②に片栗粉をまぶして、180度の油で7~8分くらい揚げる。
- ④ 仕上げに、お好みでレモンを添える。

ジビエを調理する際は、中心部まで火が通るようしっかり加熱してください

出典：一般社団法人国産ジビエ認証機構

## 群馬県におけるジビエの取組

高崎市、みどり市、桐生市、安中市、片品村、甘楽町及び(株)箕輪フーズの7者がコンソーシアム(事業共同体)を立ち上げ、各自治体において、農作物に被害を及ぼす有害鳥獣として捕獲されたシカのジビエ利活用に取り組んでいます。  
(令和7年9月現在)



# 「三井物産の森」について

## 【面積】

- 全国76か所 約45,572ha (2025年4月1日時点)  
東京都23区の約7割相当 国土の0.1%を占め、約8割が北海道に所在
- 民有林所有面積としては、国内第4位

## 【森林管理・認証】

- 社有林管理は100%連結外子会社の三井物産フォレスト(MBF)へ委託
- 立木の育成管理、造材、素材販売までを包括的にMBFが実施
- 大規模森林保有者としては日本唯一保有山林全域で森林認証(FSC・SGEC)取得



● 点は全国の社有林所在地  
(四国以外に所在)

# 当社独自の価値創出/公益的機能強化～環境省「自然共生サイト」への登録



- 「自然共生サイト」とは、民間の取組などによって生物多様性の保全が図られている区域を国が認定するもの。認定区域は、既存の保護地域との重複箇所を除いてOECM(※)として国際データベースに登録され、30by30目標（2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効率的に保全しようとする世界目標）の達成にも貢献する取組。
- 従来の木材生産や二酸化炭素吸収・固定（カーボンクレジット）に加え、生物多様性や生態系サービスといった自然資本の価値をOECMという国際的な枠組みで示すことでグローバルに価値を発信できる。
- 当社は、広大な社有林を保有する企業としての責任を果たすと同時に、日本全体の森林価値向上を牽引することを目指しており（あり姿参照）、自然共生サイトを活用した価値発信においても業界をリード。自然共生サイト9つの価値基準を全てカバーする多様性に富んだ山林を保有しており、既に登録済の2山林（金目山林、清滝山林）に加え、今期新たに4山林を申請中。



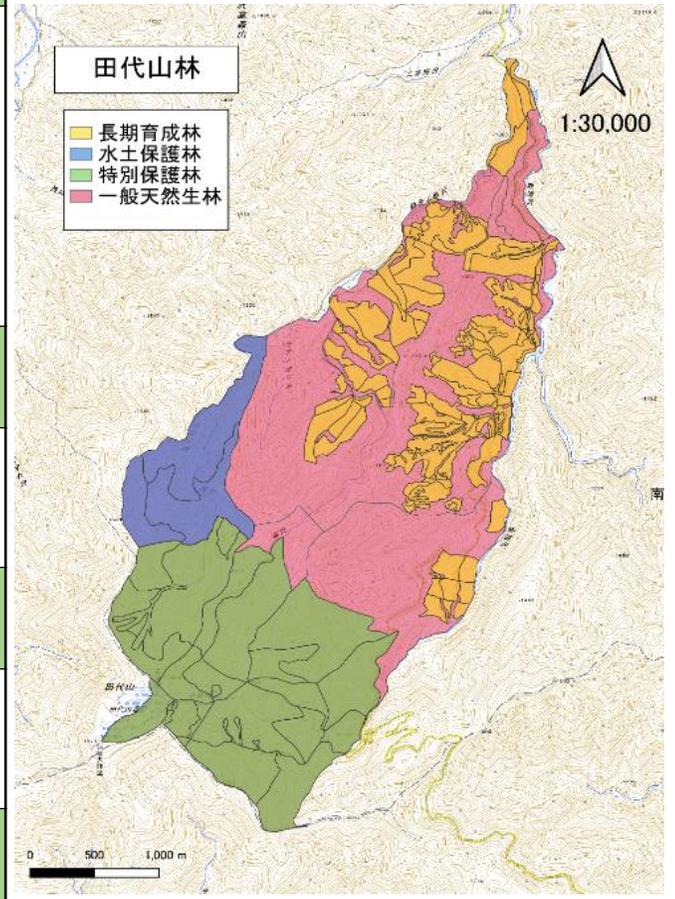
※Other Effective area-based Conservation Measures/国立公園等の保護区ではないものの、生物多様性を効果的に保全しうる地域

# 2026年度第3回自然共生サイト認定申請中 ～三井物産の森/田代山林～



<b>場所・面積</b>	福島県南会津郡南会津町、999.133ha（山林全域）
<b>価値（1）公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場</b>	
<p>福島県南会津郡南会津町の南端、栃木県日光市境近くに位置する田代山（標高1971m）の頂上付近に形成された約20haの高層湿原は、単一の台地上の傾斜湿原としては、世界的にも稀であるとされ、尾瀬国立公園の特別保護地区に指定されている。</p> <p>湿原としての発達度も高く、高層湿原の極相的群落であるチャミズゴケ群落が見られる。また、山頂の湿原を埋め尽くすキンコウカの大群落も規模の面から見て特筆すべきものである。</p>	
<b>価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場</b>	
<p>尾瀬国立公園田代山山頂に至る登山道が整備されており、猿倉登山口では毎年6月の第2日曜日に山開きの神事が行われ多くの登山客で賑わう。花の百名山にも選ばれている田代山の山頂湿原ではワタスゲやキンコウカなどの群落が見られ、植物好きには特に魅力的な散策ルートとなっている。</p>	
<b>価値（7）分布が限定されている、特異な環境に依存する等、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場</b>	
<p>田代山山頂部に形成された約20haの高層湿原は、単一の台地上の傾斜湿原としては、世界的にも稀であるとされる。湿原としての発達度も高く、高層湿原の極相的群落であるチャミズゴケ群落が見られる。また、山頂の湿原を埋め尽くすキンコウカの大群落も規模の面から見て特筆すべきものである。</p>	
<b>価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト設定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場</b>	
<p>田代山林に含まれる田代湿原が尾瀬国立公園の一部となり、特別保護地域に指定されている。</p> <p>国立公園区域と連続した亜高山帯は第2種特別保護地区に指定され、オオシラビソ、ネズコ、ハイマツ等の針葉樹が生息する。</p>	

## 区域図

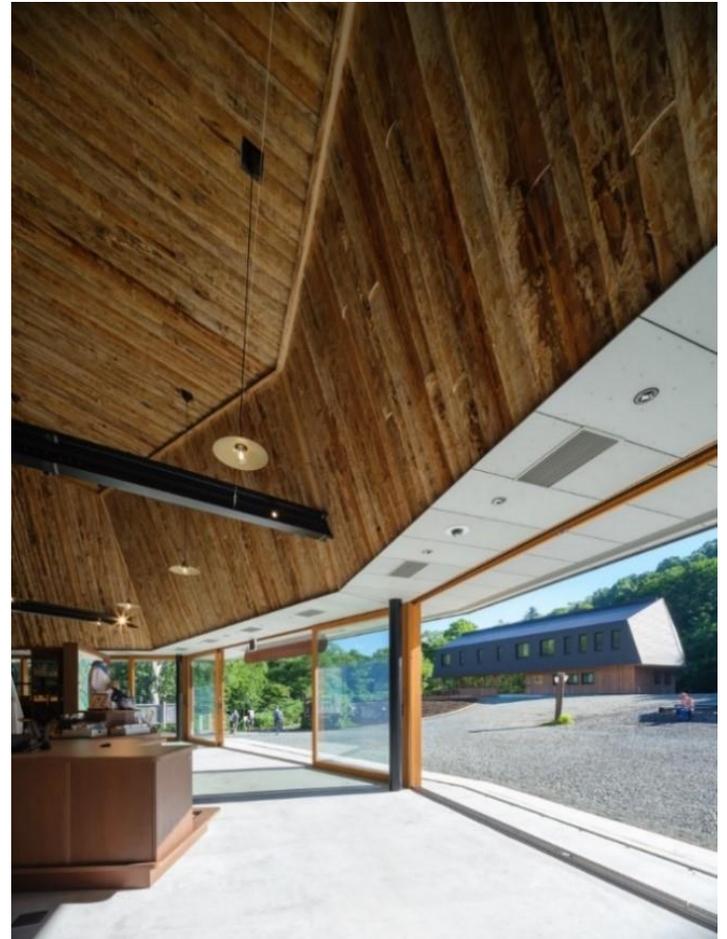


# 鳩待山荘・休憩所のリニューアルについて





写真② 休憩所棟外観



写真③ 休憩所棟内部



写真④ 山荘棟外観



写真⑤ ドミトリー



写真⑥ 2名室



写真⑦ 4名室

## 令和 7 年度尾瀬国立公園利用アクションプランの進捗状況について

---

尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会

# ■ 尾瀬国立公園利用アクションプランについて

## 尾瀬国立公園利用アクションプラン（利用AP）

- ・ 尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用の促進により、尾瀬ビジョンの実現に利用面から寄与する行動計画として策定
- ・ 進捗管理のための成果指標と、その向上のための取組プログラムによって構成

## ○これまでの取組過程と今後について

### ■ 2023（令和5）年度

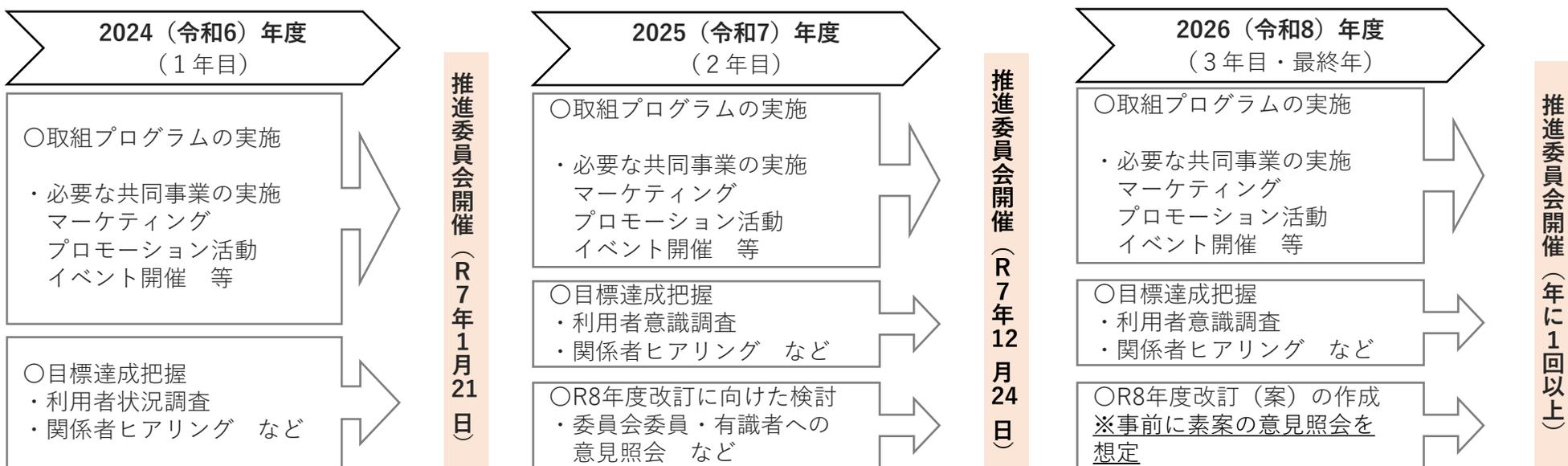
- ・ 利用AP検討小委員会において利用APを策定（3年程度で内容を適宜見直し）。

### ■ 2024（令和6）年度～

- ・ 尾瀬の利用促進を考える場として「尾瀬国立公園利用アクションプラン推進委員会」（事務局：関東地方環境事務所）を設置。
- ・ 目標達成に向けて、各構成員が主体となって必要な事業・調査等を実施し、利用APの進捗管理を実施。

### ■ 2026（令和8）年度

- ・ 利用APの進捗管理を行うとともに、利用状況や自然環境、社会状況の変化を踏まえながら次期利用APへの改訂を行う。



# 尾瀬国立公園利用アクションプランの概要

みんなに愛され続ける尾瀬

新・尾瀬ビジョン

利用者

いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる

地域

地域の人々が誇りを持っていきいきできる

生きもの

尾瀬本来の生き物がありのままに生きている

## 尾瀬利用アクションプラン

尾瀬を  
楽しむ

尾瀬を  
守る

### 成果指標

3年ごとに目標値を設定し、毎年、進捗を把握、取組（プログラム）の発展に活かす

#### 尾瀬ファン創出プログラム

尾瀬ファンとの交流の場づくりや尾瀬の守る活動に参加する仕組みづくり

#### 滞在・周遊促進プログラム

周遊や滞在を促進し、楽しみながら保護につながるようなプログラムの造成

#### 魅力向上プログラム

尾瀬の豊かな自然環境を感じられるよう、情報案内機能の向上や滞在空間の上質化を促進

#### 脱炭素・循環型公園プログラム

尾瀬を成立させている寒冷な自然環境を持続していくために脱炭素・循環型公園形成のための取組を実施

#### シビックプライド形成プログラム

地元の方々の尾瀬に対する愛着や誇りを持てる機会を提供

#### 魅力的プロモーション 実施プログラム

尾瀬の価値を広く発信するためPR手段等の改善



ファン

尾瀬利用回数 2回以上 & 守る活動への参加



リピーター

尾瀬利用回数 2回以上



ビギナー

尾瀬利用回数 1回

尾瀬を  
楽しむ

尾瀬を  
守る

### 尾瀬ファンベース戦略

楽しむ活動と守る活動の相乗効果を図る利用アクションプランの実行戦略。

利用者を3つ（ビギナー、リピーター、ファン）に分け、各利用者層に応じた取組（プログラム）を整備・実施する。

# 尾瀬国立公園利用アクションプラン 成果指標

目標

みんなに愛され続ける尾瀬

主な成果指標

尾瀬を楽しむ

尾瀬利用者の満足  
7段階評価

尾瀬を守る

尾瀬関係の消費額

守る活動への参加率

22年度 最大 9.3 億円  
23年度 最大 16.2 億円  
26年度 最大 23.4 億円  
拡大推計

22年度 6.27pt  
23年度 6.12pt  
26年度 6.45pt  
(目標)

22年度 参加率 —  
23年度 利用状況調査アンケート 31.6% ※  
26年度 36.6%  
(目標)

※ 「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」を含む全選択肢を対象とした守る活動の参加率は97.8%

来訪者数

消費単価  
(尾瀬内旅行消費)

シカ対策  
ボランティア参加者数

歩道維持  
維持活動参加者数

外来種対策  
ボランティア参加者数

トイレ  
一人あたりの支払い額

22年度 +0.9万人  
15.4 万人  
23年度 16.3 万人  
26年度 最大 20 万人  
(目標)

22年度 +2,496円  
7,989 円  
23年度 アンケート調査 10,485 円  
26年度 11,680 円  
(目標)

22年度 +56人  
197人  
23年度 253人  
26年度 280人  
(目標)

22年度 +24人  
0人  
23年度 24人  
26年度 200人  
(目標)

22年度 -7人  
26人  
23年度 19人  
26年度 63人  
(目標)

22年度 -0.01円  
49.14 円  
23年度 49.13 円  
26年度 63.00 円  
(目標)

宿泊数 (野営含む) 5 万人 5.6 万人 6.7 万人 10,455 円 14,087 円 17,000 円

日帰り数 10.4 万人 10.7 万人 13.3 万人 3,941 円 7,814 円 9,000 円

※RS 環境省・利用状況調査(アンケート)において保全活動への参加状況を集計。  
守る活動への参加率は、「環境保全への寄付」「地域貢献型商品購入」「ごみ拾い」「ボランティア参加」「登山道整備」「外来植物除去」「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」のうち、「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」以外について参加した割合を示す。  
なお、全選択肢を対象とした場合の参加率は97.8%であり、ほとんどの利用者はなんらかの形で守る活動に参加しているため、指標としては発展的に「トイレチップの支払い」「ストックのキャップ着用」を除外して設定。  
※尾瀬を守る活動であるシカ対策、歩道維持、外来種対策、トイレは、新・尾瀬ビジョン「尾瀬を取り巻く自然的・社会的環境の主な変化」等より抽出。



ビギナー戦略

尾瀬を認知し、実際に訪問してくれる人を増やす



リピーター戦略

尾瀬ビギナーを再訪につなげる



ファン戦略

尾瀬を想う人を増やし、尾瀬の守りに巻き込む

各取組の貢献評価

# ■ 成果指標の進捗状況について(1 of 3)

目標達成

目標未達成

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	実績	目標 実績	目標
①	尾瀬関係の消費額（推定）	円	②×③	9.4億	16.5億	18.7億	21.2億 27.2億	23.4億
②	来訪者数	人	登山者カウンター計測数	15.5万	16.3万	15.6万	18.9万 17.2万	20.0万
②-1	↳ 宿泊	人	山小屋からの聞き取り	5.1万	5.9万	5.8万	6.4万 6.2万	6.7万
②-2	↳ 日帰り	人	②- (②-1)	10.3万	10.5万	9.8万	12.5万 11.0万	13.3万
③	消費単価(尾瀬内旅行消費)	円	$\frac{((②-1) \times (③-1) + (②-2) \times (③-2))}{②}$	¥6,107	¥10,062	¥12,012	¥11,238 ¥15,824	¥11,680
③-1	↳ 宿泊	円	利用者アンケートによる把握	¥10,455	¥14,087	¥19,949	¥16,000 ¥24,562	¥17,000
③-2	↳ 日帰り	円	利用者アンケートによる把握	¥3,941	¥7,814	¥7,296	¥8,800 ¥10,948	¥9,000

- ✓ 来訪者数の増加は、週末や祝日の天候が恵まれたことが影響していると推測される。
- ✓ 2025（R7）年度は来訪者数が増加した一方で山小屋宿泊率が減少したため、延べ宿泊者数は2024（R6）年度と比べて微増であった。
- ✓ 2024（R6）年度と比較して消費単価は増加し、2026（R8）年度の目標も達成している状況。

## ■ 成果指標の進捗状況について(2 of 3)

目標達成

目標未達成

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	実績	目標 実績	目標
④	守る活動への参加率	%	利用者アンケートによる把握	データなし	31.6%	35.9%	35.0% 54.5%	36.6%
⑤	シカ対策ボランティア参加者数	人	関係者からの聞き取り	197人	253人	208人	270人 224人	280人
⑥	歩道維持維持活動参加者数	人	関係者からの聞き取り	0人	24人	8人	100人 58人	200人
⑦	トイレ一人あたりの支払い額	円	関係者からの聞き取り	47.37円	48.99円	47.75円	58.00円 47.27円	63.00円
⑧	外来種対策ボランティア参加者数	人	関係者からの聞き取り	26人	19人	39人	50人 53人	63人
⑨	尾瀬利用者の満足	pt	利用者アンケートによる把握	6.3pt	6.1pt	6.2pt	6.3pt 6.5pt	6.5pt

- ✓ 「守る活動への参加率」は、すでに2026（R8）年度の数値目標を達成している。
- ✓ シカ対策の参加者数は、2025（R7）年度については参加者数の増加が見られた。
- ✓ 歩道維持活動参加者数について、2025（R7）年度は、昨年に引き続き群馬県「尾瀬登山道整備ツアー」が実施されたほか、新たに福島県「ふくしま尾瀬登山道整備ツアー」、尾瀬小屋「木道修繕ボランティア」等が行われている。
- ✓ トイレ一人あたりの支払額については、2025（R7）年度は「来訪者数」が増加したにも関わらず、トイレ一人あたりの支払額は減少した。
- ✓ 尾瀬利用者の満足度は、2023（R5）年度から継続的に数値の上昇が見られる。

# ■ 成果指標の進捗状況について (3 of 3)

目標達成

目標未達成

	指標	単位	把握・計算方法	2022	2023	2024	2025	2026
				実績	実績	実績	目標 実績	目標
⑩	自然保護の原点としての認知度	%	利用者アンケートによる把握	データなし	52.1%	54.7%	56.0% 66.2%	58.0%
⑪	ビギナー他ALL (=来訪者数)	人	登山者カウンター計測数	15.5万	16.3万	15.6万	18.9万 17.2万	20.0万
⑫	リピーター (2回以上来ている)	人	⑩×⑬	11.0万	11.0万	9.6万	12.4万 10.6万	13.1万
⑬	リピート率	%	利用者アンケートによる把握	71.2%	67.3%	61.8%	65.5% 61.5%	65.5%
⑭	ファン	人	⑩×⑮	データなし	3.3万	3.5万	4.3万 5.9万	4.8万
⑮	ファン率	%	利用者アンケートによる把握	データなし	20.3%	22.2%	22.9% 34.2%	24.0%

- ✓ ビギナーが増加する中で認知度は向上しており、進捗は良好である。
- ✓ 「リピート率」は減少したものの「来訪者数」が増加したため、「リピーター数」は増加している。
- ✓ 2025 (令和7) 年度は「ファン数」「ファン率」とともに増加し、目標を大きく達成している。

# 成果指標の進捗状況について【まとめ】

## I. 尾瀬利用者の満足

- ✓ 満足度は高い水準を維持しており、今後は比較的満足度が低い項目（交通アクセスや登山道・ベンチの整備）の改善を図ることでさらに満足度を高めていきたい。

## II. 尾瀬を楽しむ

- ✓ 「消費単価（尾瀬内旅行消費）」の向上により「尾瀬関係の消費額」は順調に増加している。引き続き、来訪者がお金を使いたくなる高付加価値化や魅力的なコンテンツづくりを継続していく。
- ✓ 「来訪者数」は増加したが、「宿泊者数」を含めてさらなる増加に向けた取組が課題である。

## III. 尾瀬を守る

- ✓ 「守る活動への参加率」はすでに目標を達成しており、進捗は良好である。
- ✓ 一方で、一部の活動の参加者数等は目標を達成できていないため、具体的な活動の幅・選択肢を広げていくことが必要である。

## IV. 自然保護の原点としての認知度

- ✓ ビギナーが増加する中で認知度は向上しており、進捗は良好である。

## V. 尾瀬ファンベース戦略

- ✓ ビギナーは大きく増加しており、今後はビギナーのリピーター化が重要である。

## ■ 取組プログラムの実施状況について（今年度実施された主な取組）

### ◎尾瀬フェアの実施（尾瀬保護財団） …ビギナー戦略

- ビギナー登山者へ尾瀬の魅力をPRして新たな尾瀬ファンを獲得するため、2026年2月28～3月1日（土・日）に京王線高尾山口駅前広場（東京都八王子市）で、尾瀬保護財団設立30周年記念事業の一環としてイベントを開催
- 尾瀬に関係する各自治体、観光協会、企業等が出展

### ◎ふくしま尾瀬魅力発信強化事業（福島県） …ビギナー、リピーター戦略

- ふくしま尾瀬写真投稿キャンペーンを開催、受賞作品は今後のふくしま尾瀬PRに活用
- 2025年8月23～24日（土・日）に京王線高尾山口駅前周辺（東京都八王子市）にて、ふくしま尾瀬の魅力を発信するイベントを開催、尾瀬の歩荷体験やトークイベントなどを実施

### ◎尾瀬登山道整備ツアー（福島県、群馬県） …リピーター、ファン戦略

- 保全と利用が持続的に循環する新たな仕組みを構築するため、利用者参加型の登山道整備ツアーを造成
- （福島県）9月から10月にかけて2回、県が管理する見晴地区から燧ヶ岳山頂に至る「見晴新道」を対象に、ぬかるみや洗堀箇所を解消するために実施、計19名が参加
- （群馬県）9月から10月にかけて、県が管理する大清水から尾瀬沼にかけての登山道を対象に、オンラインや現地での講習を計6回実施

### ◎国立公園ならではの試行的取組（尾瀬小屋） …ファン戦略

- 国立公園宿舎事業者が「国立公園ならではの宿泊施設」として、感動体験を提供
- 8/25に42名（関係者含む）が参加し、約2.6kmの登山道（見晴～白砂峠）の修繕（滑り止めの栈木の修繕）を実施
- 駆除シカを活用した食事メニューを「尾瀬ジビエ」として試作、商品化に向けて検討

# 利用AP改訂の考え方

- 2024（令和6）年2月29日に策定した「尾瀬国立公園利用アクションプラン」に次のとおり記載されていることを踏まえ、3年目にあたる2026（令和8）年に改訂を行う。
  - ・ 社会・経済環境の変化や利用状況の変化に対して、順応的な管理が行えるよう、取組毎に進捗状況やその効果を把握するとともに、ファンベース戦略全体の成果指標（目標、主要成果指標及び中間指標）の達成状況について定期的に評価・検証を行います。
  - ・ その評価を踏まえて、3年毎を目安に取組プログラムや成果指標を随時、改善します。
  - ・ 利用APの見直しに当たっては、取組（プログラム）の実施状況等を踏まえながら、利用状況及び利用動態等に関するモニタリング情報等を反映し、利用状況や自然環境、社会状況の変化に対応した、順応的な改訂を行います。
  
- 過去2年間の評価及び課題は以下のとおり。
  - ・ 「新・尾瀬ビジョン」が掲げる「尾瀬がめざす姿」の実現に利用面から寄与するプランを取りまとめるとともに、利用状況及び利用動態等に関するモニタリング手法を確立することができた。
  - ・ すでに2026（令和8）年の数値目標を達成できた指標もあるが、更なる取組の推進が求められる指標もある。
  - ・ 利用AP策定時はコロナ禍で少なかった訪日外国人が全国的に回復・拡大し、尾瀬でも増加が指摘されている。
  - ・ 利用APで示されている尾瀬の利用における課題等について、引き続き解決に向けて取り組む必要がある。



## 利用AP改訂の考え方

- ✓ 利用APの根幹をなす「尾瀬ファンベース戦略」や利用APのコンセプトは維持する。
- ✓ 外国人旅行客の増加など、利用状況や社会状況の変化を踏まえた改訂（指標の見直し含む）を行う。
- ✓ 成果指標の達成状況やこれまでの取組状況等から挙げられる尾瀬の利用面の課題を踏まえた改訂を行う。

# ふくしま尾瀬の取組について (令和7年度)

## ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

2025年12月  
福島県自然保護課

# 1 尾瀬国立公園利用アクションプランの位置づけ

## (3) 尾瀬の利用における課題と対応の必要性

### 4. 尾瀬の魅力を訴求するプロモーションの強化

- ・ 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなどの価値を有しており、現状、首都圏をはじめ全国から利用者が来訪しているものの、国内旅行市場全体では、尾瀬の認知度、来訪経験率、再訪意向のいずれもが低下傾向にあり、尾瀬の普遍的価値を知る人自体が少なくなっています。
- ・ また、尾瀬には、3つのアプローチ（3県からのアプローチ、3つの最寄り駅、3つの移動手段（自家用車・バス・遊覧船））、2つのゲートタウン（片品村・檜枝岐村）、6つの主な入山口や様々な登山道、さらに宿泊・立ち寄り利用できる複数の山小屋や2つのビジター、利用施設が集積する複数の地区があります。
- ・ しかし、現状では、尾瀬全体としての魅力の発信が十分ではなく、また、それぞれの持つ個性、特徴など尾瀬が有する多様な利用の魅力を十分に伝えられていない状況にあります。
- ・ 今後は、尾瀬全体の魅力を構成するこれらの個性化をさらに進め、特徴をより明確にしていくことで、尾瀬の魅力の本質を訴求するプロモーション強化が必要となります。

※尾瀬国立公園利用アクションプランより

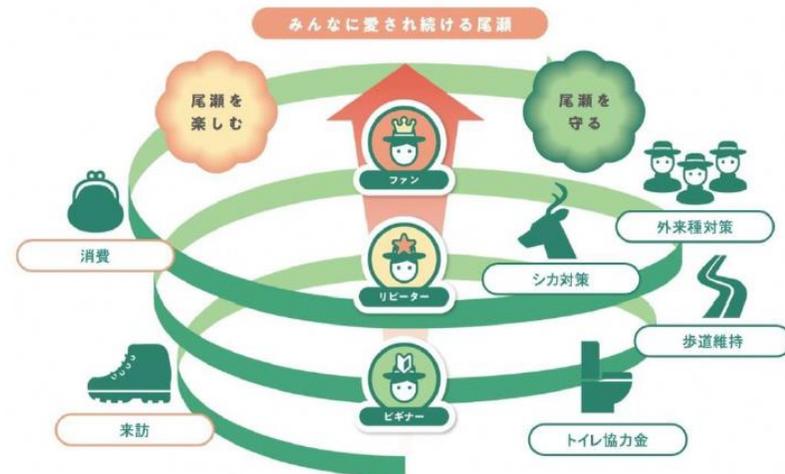


図 47 尾瀬ファンベース戦略の全体イメージ

表 6 取組一覧表（利用 AP 策定時点）

### (3) 魅力的プロモーション実施プログラム

尾瀬のイメージの発信 No.29 スタートアップふくしま尾瀬事業 ・ No.30 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

取組プログラム	No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
(3) 魅力的プロモーション実施プログラム	26	尾瀬のイメージの発信	グルメを通じた国立公園の魅力発信	尾瀬小屋	継続
	27		片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口でのPR活動事業	一般社団法人片品村観光協会	協議中
	28		Instagramキャンペーン（フォトコンテスト）	(公財)尾瀬保連財団	継続
	29		スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）	福島県	完了
	30		ふくしま尾瀬魅力発信強化事業	福島県	継続

## 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について

### ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

福島之宝である尾瀬を大切に保護する一方、多くの人びとに訪れていただきたく、福島県側から尾瀬に入山する一帯及びその地元町村を含めて令和4年度からふくしま尾瀬魅力発信強化事業を展開しています。

体験型のイベントや情報発信を行い、尾瀬を訪れるきっかけ作りをおこなっています。

#### 🌄「ふくしま尾瀬」

福島県側にある尾瀬国立公園とその玄関口となる檜枝岐村及び南会津町の自然や文化の体験を目的としたネイチャーツーリズム。

※平成30年～令和3年度まで実施していた「スタートアップふくしま尾瀬事業」の後続事業であり、今年で4年目となります。



ふくしま尾瀬旅 まだ知らない尾瀬に、会いに行こう。

この夏、高尾に  
ふくしま尾瀬がやってくる！



ふくしま尾瀬  
登山道整備ツアー



ふくしま尾瀬  
写真投稿キャンペーン



イラスト=大西土夢

特設サイト、ふくしま尾瀬ホームページ、SNSによる一体的な情報発信

## 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について

### 首都圏情報発信イベント

この夏、高尾にふくしま尾瀬がやってくる！

ふくしま尾瀬に関わる皆さまのご協力のもと、福島県側から訪れるふくしま尾瀬の魅力を高尾山で発信しました。

#### ブース出展団体

檜枝岐村、南会津町、尾瀬保護財団、Japanese Porter、Teton Bros.、MOUNTAIN DAISY PRODUCTS、クラブツーリズム、トラベルギャラリー・旅の本棚

#### トークイベントゲスト（敬称略）

登山系YouTuber 山下舞弓  
環境省檜枝岐自然保護官事務所 国立公園管理官 塩野目 望  
アウトドアスタイル・クリエイター 四角友里  
山の編集長(山と溪谷社)萩原浩司  
地域おこし協力隊 萩原 舞



イラスト=大西土夢

### 1 開催日程

令和7年8月23日(土)～24日(日)

### 2 開催場所

メイン会場 京王高尾線高尾山口駅前広場

トークイベント会場 高尾599ミュージアム

### 3 イベント概要

東京近郊で最も人気のある登山スポットのひとつ、「高尾山」。そんな高尾山に「ふくしま尾瀬」が出張！

檜枝岐村、南会津町の特産品や、尾瀬にゆかりのあるアウトドアメーカーの商品などを販売するふくしま尾瀬マルシェのほか、尾瀬の歩荷体験ブースや尾瀬VR体験、ふくしま尾瀬の写真や動画コーナー、尾瀬に行ったかのような写真が撮れるフォトブースなど、楽しいコンテンツが盛りだくさん！

高尾599ミュージアムでは、ふくしま尾瀬の魅力を知り尽くしたゲスト達によるトークイベントを開催。

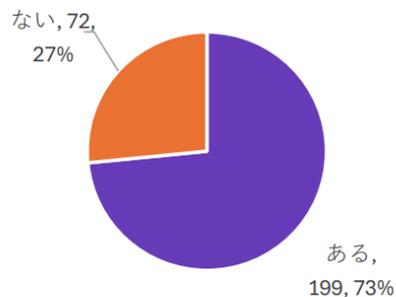


## 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について

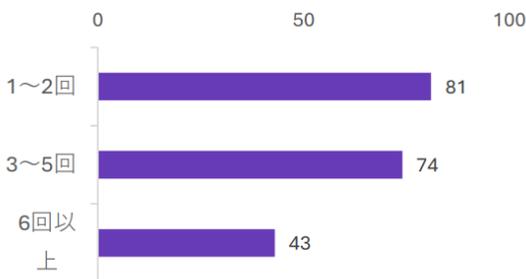
### 首都圏情報発信イベント

### この夏、高尾にふくしま尾瀬がやってくる！参加者アンケート結果

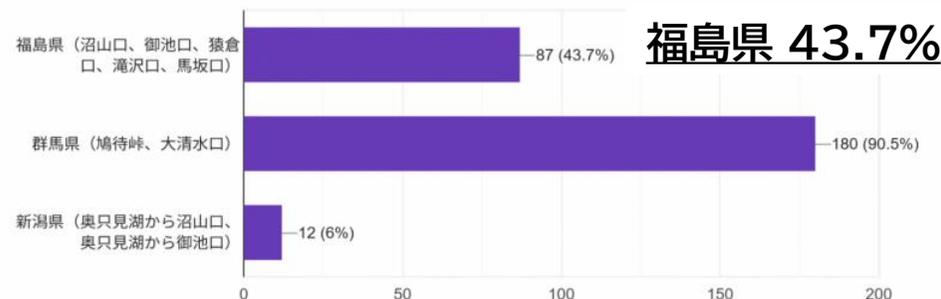
#### ■尾瀬の訪問経験は？



#### ■（「ある」と答えた方のみ） 尾瀬への訪問回数は？

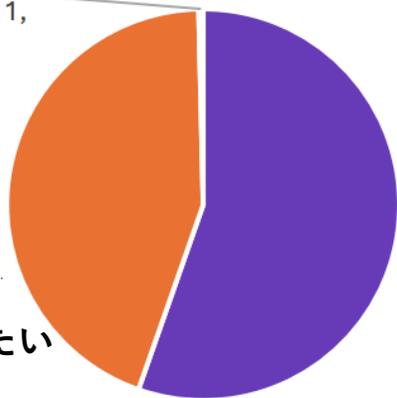


#### ■（「ある」と答えた方のみ）どの登山口から入りましたか？（複数回答可）



#### ■このイベントを通して、福島県側から尾瀬国立公園に行きたいと思いましたが？

行きたいと思  
わなかった, 1,  
1%



今年中に行きたい  
55%

来年以降検討したい  
44%

#### 参加者からの感想

- ・ 尾瀬に行ってみたいと思っていた。このイベントで魅力を知ることにより、行きたいという思いが強くなった。
- ・ 尾瀬はとても素敵な所ですが、関東圏は群馬側からの情報が多いので、福島側から入る尾瀬の情報が得られてよかったです
- ・ 楽しかったです。絶対ふくしまから尾瀬沼に行きます

シーズン中のイベント開催で  
ふくしま尾瀬へ訪れるきっかけに！

## 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について



### ふくしま尾瀬登山道整備ツアー

見晴新道のぬかるみやガリーを解消するため、登山道整備ツアーを初開催しました。東京や千葉などの関東圏の方を中心に、計19名の方にご参加いただきました。



イラスト=大西士夢

2回のツアーで  
計20mほどの区間を整備！

#### 1 開催日程

1回目 9月22日(月)～24日(水)

2回目 10月7日(火)～9日(木)

#### 2 登山道整備内容について

今回整備を実施するのは、本県が管轄する見晴地区から山頂に至る「見晴新道」です。急峻な山の地形や地質の関係で、雨水による浸食やぬかるみが発生してしまっているため、倒木や土砂を使って登山道の整備を行います。

登山道整備は、尾瀬ガイドとして活躍する(一社)尾瀬登山道整備部の小林慎治さん、館山美和さんの立ち会い・指導の下、参加者の力量を見ながら作業を分担して、安全に配慮して行います。

#### 3 参加費、募集人数等

参加費 1人1回 33,000円

募集人数 1回あたり8～10人

参加資格 18歳以上の方。

#### 4 行程

1日目 御池集合－沼山峠－尾瀬沼－沼尻－見晴－山小屋泊

2日目 山小屋発－登山道整備－山小屋泊

3日目 山小屋発－三条の滝－裏燧林道－御池解散



# 1 尾瀬国立公園利用アクションプランの位置づけ



## ふくしま尾瀬登山道整備ツアー

整備前



整備後



### 整備工程



木材の伐りだし



土砂の掘り起こし



木材、土砂の搬出



太い材の配置



細い材・石で  
隙間埋め



土砂等で整地

# 1 尾瀬国立公園利用アクションプランの位置づけ



## ふくしま尾瀬登山道整備ツアー

整備前



整備後



雨天時に冠水してしまっていた木道脇の土砂を撤去し、排水しやすいよう水切りを行った

# 1 尾瀬国立公園利用アクションプランの位置づけ



## ふくしま尾瀬登山道整備ツアー

整備前



整備後



### 参加者の声

- ・ 達成感があった
- ・ 直っていく様子がとてもうれしく感じられた
- ・ 自分たちでここまで修復できるとは思わなかった
- ・ 登山者に『ご苦労さま』と言われ、誇らしかった
- ・ また尾瀬に来たい。その後も気になるし、ほかの場所も気になるようになった

登山道整備に参加することで  
ファン層の獲得へ

## 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について

### ふくしま尾瀬写真投稿キャンペーン

ふくしま尾瀬を盛り上げるため、  
ふくしま尾瀬の絶景や思い出写真の投稿キャンペーンを  
開催しました。  
受賞作品は、今後のふくしま尾瀬PRに活用していきます。

応募総数 178 点



イラスト=大西土夢

#### 募集期間

2025年7月18日(金)～9月18日(木)

#### 応募部門

絶景！ ふくしま尾瀬 山岳自然部門  
また来たくなる！ 思い出・地域の魅力部門

#### 応募方法

各部門のテーマ内容に合った写真を、パソコン  
またはスマートフォンで、山と溪谷オンラインの投  
稿フォームまたはInstagramにて投稿。

#### 表彰

各部門 ゴールド1名、シルバー2名、ブロンズ5名

#### 応募条件

- ・ 福島県側の尾瀬エリア、檜枝岐村、南会津町で撮影し、各部門にふさわしい写真であること。
- ・ 5年以内(2020年以降)に撮影された写真であること。
- ・ 作品に写り込んでいる人の肖像権を侵害していないこと。
- ・ 過去にフォトコンテスト等で入賞した作品ではないこと。
- ・ 応募者本人が撮影した写真であること。

#### 📷絶景！ ふくしま尾瀬 山岳自然部門



#### 📷また来たくなる！ 思い出・地域の魅力部門



# 2 R7年度 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業について

## 一体的な情報発信

特設サイト(7月~11月)  
イベント情報、登山道整備ツアー、  
写真投稿キャンペーンを一体的に広報。



## ふくしま尾瀬ホームページ



新着情報、  
コラムを更新



## SNS(X、Facebook、Instagram)



リアルタイムな  
情報を発信



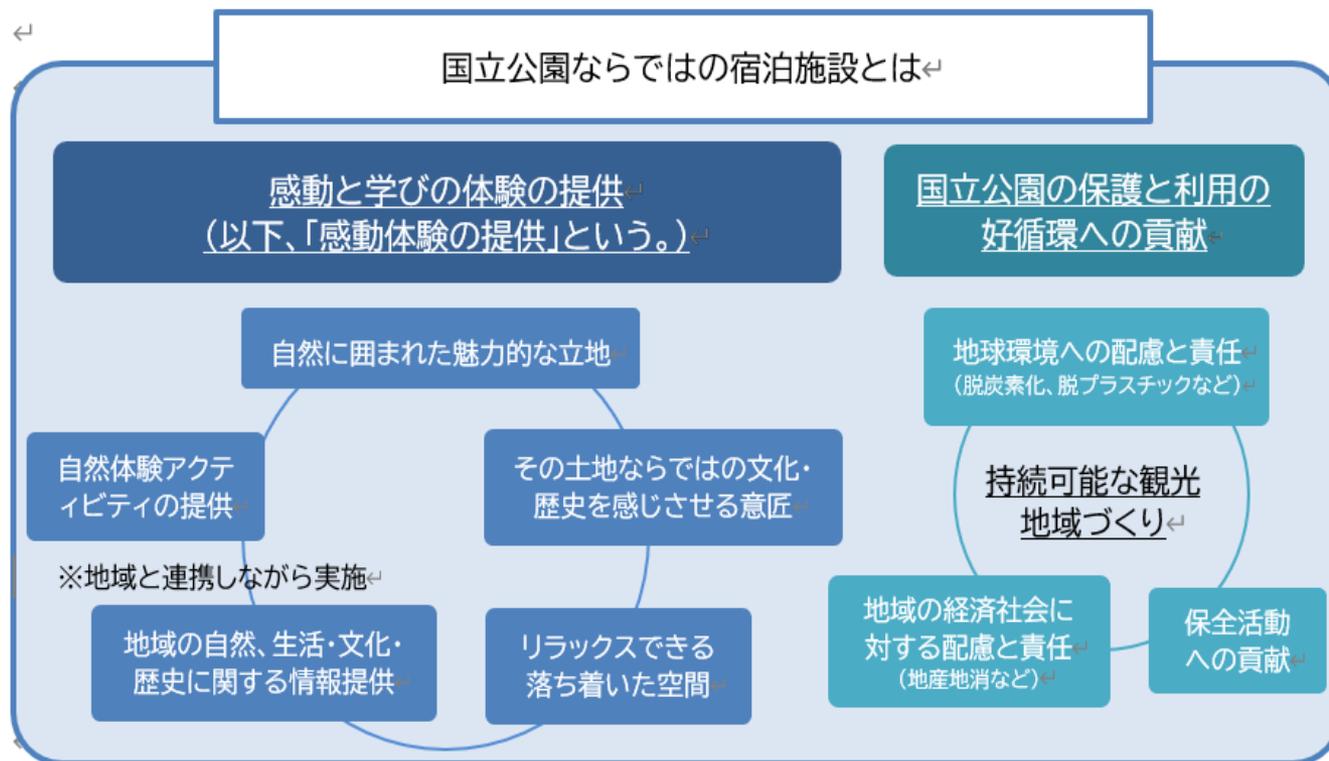
# 国立公園ならではの宿泊施設に向けた 試行的取組について

有限会社尾瀬小屋／尾瀬小屋

令和7年12月

# 国立公園ならではの試行的取組

- 国立公園は、土地所有に関わらず区域を指定する「地域制自然公園」であり、指定地域の貴重な自然を守りつつ楽しむ利用環境を整備するためには、国立公園事業の取組を、環境省だけでなく地方自治体や民間事業者など、地域の多様な関係者との「協働」のもとで実施していくことが非常に重要
- 特に国立公園の宿泊施設は、素晴らしい景観の中に位置し、環境保全、持続可能性、地域の生活・文化・歴史・コミュニティ等に配慮しつつ、その土地のストーリーを伝えるアクティビティを提供するなど、唯一無二の感動や体験ができるポテンシャルを有している
- 日本の国立公園においては、個別の取組において素晴らしい事例が多くあるものの、宿泊施設を拠点とした環境配慮、地域貢献、自然保護、感動体験の提供等の推進は十分にされてきていない
- こういった宿泊施設の存在は、国立公園の利用・滞在の魅力向上の鍵となることから、まずは国立公園宿舎事業者が「国立公園ならではの宿泊施設」として目指したい姿を下図の通り示しており、この実現に向けて環境省とともに取組んでいる



## 尾瀬小屋(尾瀬国立公園)

### 試行的取組

#### 取組1

木道の修繕作業等をコンテンツとする環境保全イベントの実施

- 8/25に**42名**(有識者(加藤委員、高山委員、寺田委員、事務局等含む)が参加し、**約2.6kmの登山道の修繕**(滑り止めの**栈木打ち**)を実施(一般参加者は尾瀬登山経験者)。
- 参加者アンケートでは、**参加者の9割以上が「とても楽しかった」、「木道の問題について関心がとても向上した」と回答。**
- 参加費用について、**費用を支払ってでも参加したい**という回答が**約6割**。負担する**費用感**は**5,000~10,000円程度が妥当**と回答。
- 参加方法は、今回のように**宿泊施設が企画したプランへの参加**(交通費や山小屋宿泊代は参加者負担)が**良いとの声**が**約6割ある一方で、パッケージツアーでの参加への希望もあった。**
- その他、木道修繕の必要性、今後の開催への期待の声も頂いた。
- 今回の結果を踏まえ、**次年度以降の環境保全イベントのありかたを今後検討。**

#### 取組2

駆除シカの商品化に向けた実証実験、メニューでの品目表示

- シカについて、**8/18に片品村での出荷制限解除。**
- 今後、**尾瀬小屋での提供を目指すほか、片品村との連携も図る。**
- 提供する**食材の産地は、メニュー看板や食堂入り口等に掲示済み。**

# 試行的取組1

## 【取組1】木道の修繕作業等をコンテンツとする環境保全イベントの実施

### ■ 実施概要

- 日時: 令和7年8月25日
- 参加者:
  - 尾瀬小屋
  - 環境省⇒関東地方環境事務所国立公園課、檜枝岐自然保護官事務所、片品自然保護官事務所
  - 指導員⇒山小屋スタッフ、山岳ガイド、歩荷、檜枝岐村職員
  - ボランティア参加者20名
  - 加藤委員、高山委員、寺田委員、環境省自然環境局国立公園課、MURC
- ※視察
- スケジュール(実績)



【イベント当日の様子】



時間	実施内容
9:00	尾瀬小屋集合
9:00~9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者挨拶</li> <li>・イベント趣旨の説明（尾瀬小屋）</li> <li>・環境省事業の説明（本省国立公園課）</li> <li>・尾瀬国立公園の概要説明、作業上の注意事項の伝達（檜枝岐自然保護官事務所）</li> <li>・片品村で駆除されたシカ肉の活用に向けた取組状況説明(片品自然保護官事務所)</li> </ul>
9:30~13:00	5グループに分かれ、各自担当区間を作業
13:00~16:00	尾瀬小屋および環境省、指導員による施工箇所の確認・補正



【イベントの告知資料】

# 試行的取組1

## 【取組1】木道の修繕作業等をコンテンツとする環境保全イベントの実施

### 【作業の様子】



### 【作業前後の木道の比較】



実施前(2025年8月15日撮影)



主に下り坂となる側の  
木道について、栈木打  
ちを実施  
※尾瀬は原則右側通行

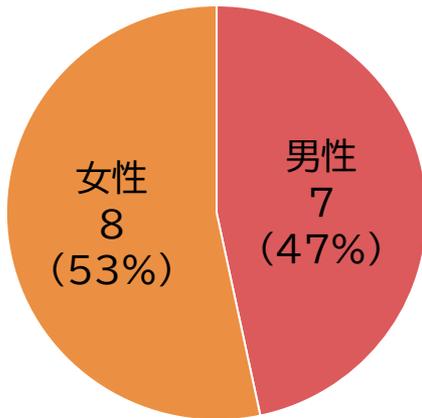
実施後(2025年8月25日撮影)

# 試行的取組1

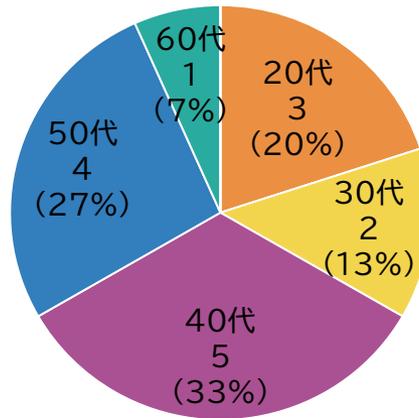
## 【取組1】木道の修繕作業等をコンテンツとする環境保全イベントの実施

### 【参加者アンケート調査結果:参加者の属性・特徴】

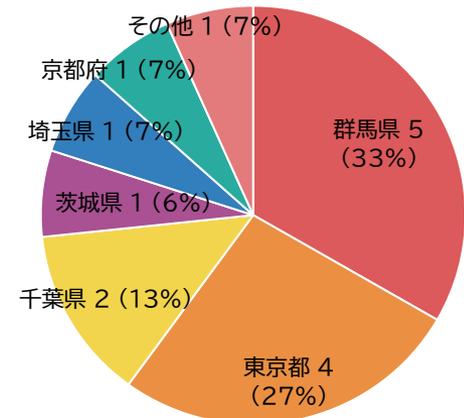
#### ■性別



#### ■年代



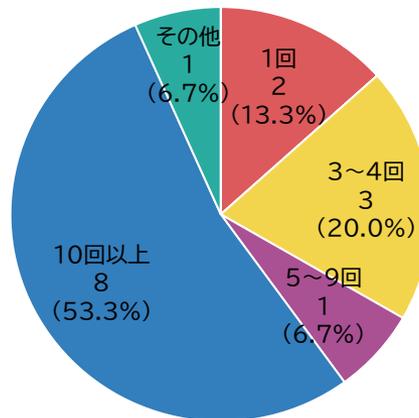
#### ■居住地



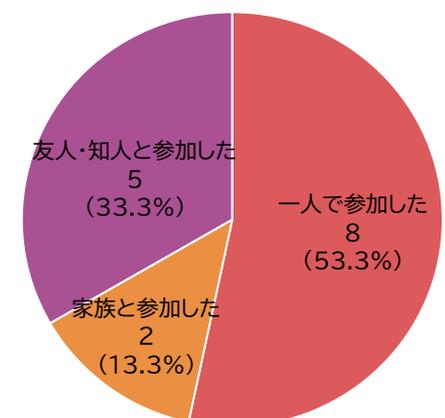
#### ■尾瀬への来訪経験



#### ■尾瀬への来訪回数



#### ■誰と一緒にイベントに参加したか

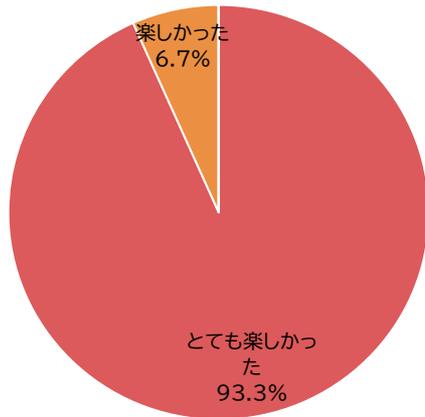


# 試行的取組1

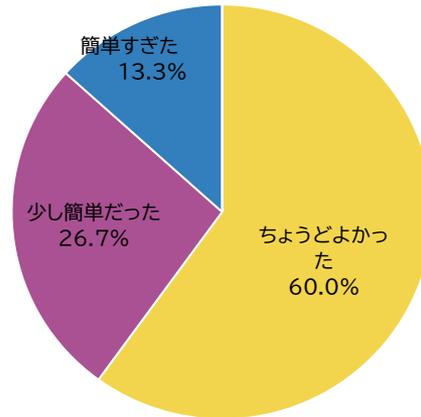
## 【取組1】木道の修繕作業等をコンテンツとする環境保全イベントの実施

### 【参加者アンケート調査結果: イベントの評価】

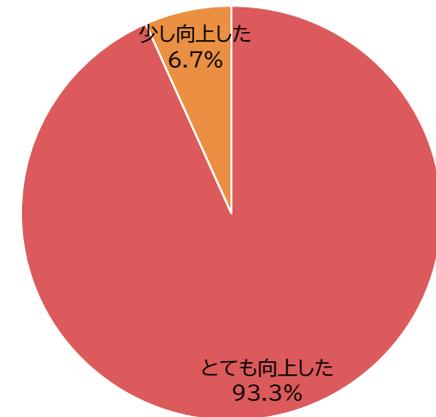
#### ■木道の修繕作業は楽しかったか



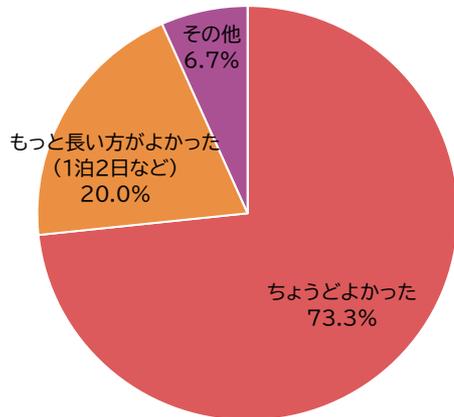
#### ■木道の修繕作業の難易度



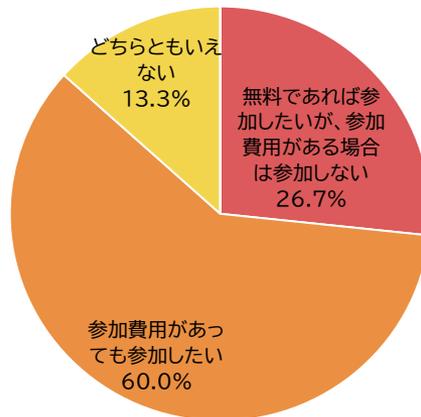
#### ■イベントに参加して、尾瀬の木道や維持管理の問題について関心が向上したか



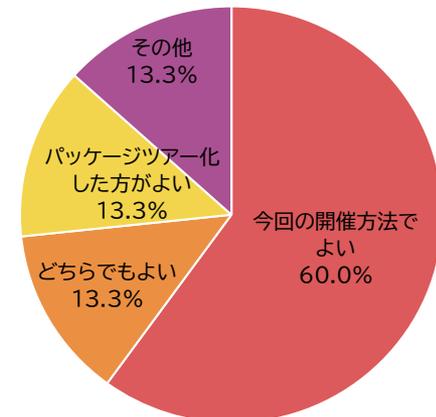
#### ■尾瀬への来訪経験



#### ■イベントの参加費用がある場合でも参加したいと思うか



#### ■パッケージツアー化したほうがよいと思うか





# 試行的取組2

【取組2】駆除シカに係る商品化に向けた実証実験、メニューでの品目表示

【地産地消に関する情報開示】



# 持続可能な歩道のあり方検討について

---

尾瀬国立公園歩道のあり方検討会

# 取組の方向性について（昨年度のおさらい）

## 尾瀬国立公園全体での検討課題

1 整備・維持管理の方針に関する課題

2 資金に関する課題

3 従事者に関する課題

## 取組の方向性

①整備・維持管理の方針の明確化

まず①に取組み、  
次に②③を実行する

②不足する資金の確保



③不足する従事者の確保

# 方針（案）の背景・位置づけ

## 尾瀬国立公園における歩道整備・維持管理の基本方針（案）

### <背景>

- 昨年度の議論を踏まえ、尾瀬国立公園における歩道の整備・管理に関する基本的な方向性を整理するものとして作成
- 「尾瀬国立公園における群馬県歩道の「再整備及び維持管理方針」（案）」（群馬県、2025）を参考に、公園全体に適用する方針として作成
- 歩道施設について、真に整備する必要がある箇所はどこか、どのように効率的に維持管理をしていくべきか、**現状の利用状況等に合わせて最適化を図る。**

### <位置づけ>

- 尾瀬における歩道の整備・維持管理の基本的な考え方を改めて整理し、**歩道管理者等が共通認識を持って議論・判断・実践していくための拠り所**として策定。
- 個別路線ごとの詳細な設計や工法を規定・制限するものではなく、**実際には各管理者において、各路線・区間の実情も踏まえた上で、適切な実施内容を判断する**ものとする。

## もくじ

### はじめに

#### 1. 本方針の対象

…方針策定の背景や位置づけを整理

#### 2. 尾瀬国立公園における歩道の現状と課題

…用語の定義及び対象路線の明示

#### 3. 既存の計画等における歩道の取り扱い

…現状と課題を整理

#### 4. 基本方針

…管理運営計画書等における位置づけを引用

#### 5. 歩道の最適化モデル

…全路線に共通する考え方を整理

#### 6. 路線毎の整備・維持管理の基本的な内容

…基本的な整備・維持管理水準を整理するモデルを作成

#### 7. 本方針の見直しについて

…モデルをもとに路線毎の整備・維持管理水準を整理

赤字…本方針（案）において特に重要なパート

# 方針（案）の概要 < 4. 基本方針 >

## ■整備の方針

- ① 整備箇所の自然環境や利用状況等を踏まえて必要最小限の規模・構造とする。
- ② 自然環境や景観に配慮しながら長寿命化や脱炭素化を図る。
- ③ 維持管理しやすい工法を導入し、持続可能性を確保する。
- ④ 極端な低利用路線や管理が困難な路線は廃道化も含めて検討する。
- ⑤ 整備内容の検討にあたっては、地域関係者の意見を適切に取り入れる。

## ■維持管理の方針

- ① 路線ごとの自然環境や利用状況に応じた維持管理を行う。
- ② 歩道施設の破損等に対して適切に対処し、長寿命化を図る。
- ③ 踏圧と流水をコントロールし、植生や土壌の荒廃を抑制する。
- ④ 下草刈り等により登山ルートを明確化する。

## ■その他

各歩道管理者が有する施工事例や新たな知見を可能な限り共有し、歩道の持続可能性を向上させられるような手法の横展開を図る。

# 方針（案）の概要 < 5. 歩道の最適化モデル >

➤ 基本的な歩道整備・維持管理の内容を、「**利用状況**」と「**環境条件**」の2軸で整理

## 利用状況

最も利用の多い1時間の利用状況(最も環境負荷が大きい状態)			
区分	定点での利用の程度	利用上の問題点	発生する環境負荷
		1時間利用者数 (10人のグループ同士の すれ違い頻度)	すれ違いと後続団体の追い越しなどの 状況
高利用	171人以上 (7分以内)	少し立ち止まっただけで、後続団体の 追い越しとすれ違いが同時発生	頻繁に起こる
中利用	80人～171人 (7分～15分)	常時すれ違いが発生	すれ違い場所が少ない場合、頻繁に 起こる
低利用	17人～80人 (15分～70分)	たまにすれ違いが発生	すれ違いができない場所で、散発的に 起こる
極低利用	17人未満 (70分以上)	ほとんどすれ違いが発生しない	ほとんど起こらない



## 環境条件



湿原



樹林帯



岩稜帯

# 方針（案）の概要 < 6. 路線毎の整備・維持管理の基本的な内容 >

## 歩道の最適化モデルを各路線に適用

※イメージ

		利用状況	環境条件(●:大部分、○:一部)				利用のゾーニング	関連方針			
			湿原・雪田	樹林帯		岩稜帯			川・沢		
				平坦・緩傾斜	急傾斜						
10	赤法華鳩待峠線	②沼山峠登山口～大江湿原入口	中利用		●	○			Ⅲ. 探勝		
		③大江湿原	中利用	●				○	Ⅲ. 探勝		
		④尾瀬沼集団施設地区～沼尻(大江湿原は除く)	中利用	○ 浅湖湿原	●				○	Ⅲ. 探勝	
		⑤沼尻～見晴	低利用	○ 白砂湿原	●	○			○	Ⅱ. 軽登山	
		⑥見晴～山ノ鼻(研究見本園含む)	高利用	●					○	Ⅲ. 探勝	

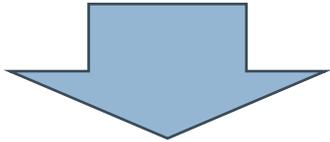
### < 留意点 >

- また、管理運営計画書に記載の「利用のゾーニング」についても参照し、想定される利用者のレベルに合わせた安全性等も考慮する。
- 一部の路線には独自の方針も存在することから、そうした関連方針等も含めた個別事情がある場合は、その内容も踏まえて整備・維持管理の内容を判断する。

# 今後の検討の進め方

## 基本方針（案）について

- 検討会等でいただいた意見を踏まえて修正
- 来年度、山小屋やガイド事業者等の地域関係者の意見も聞いた上で、正式策定



## 次のステップ

- 方針で整理した考え方に基づく、各歩道管理者等における取組が必要
  - そのために必要な資金、従事者の確保に向けた取組も必要
- 歩道のあり方検討会を引き続き開催し（年1回程度）、各歩道管理者等の取組内容に関する情報共有、及び必要な連携についての議論を進めていく

# 尾瀬国立公園における二ホンジカ対策について

---

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会  
事務局：環境省関東地方環境事務所

# 「尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針」の改訂

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針

2025（令和7）年5月27日

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会

- 令和2年1月22日に策定した「尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針」について、これまでの対策の成果を踏まえ、令和7年5月27日に改訂
- 改訂のポイントとしては以下のとおり

## 1.数値目標の設定

湿原と森林それぞれ、短期目標（2029年度）、長期目標（2038年度）を定量的な指標で設定

## 2.植生保護の実施方針：優先防護エリアの再評価

優先防護エリアの再評価を実施

新たにランクAとなった4箇所について2029年度までに植生保護柵の設置を検討

## 3.捕獲の実施方針

保全対象（地域）ごとに、時期や手法を定め、関係機関で連携し捕獲を実施

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（2025）

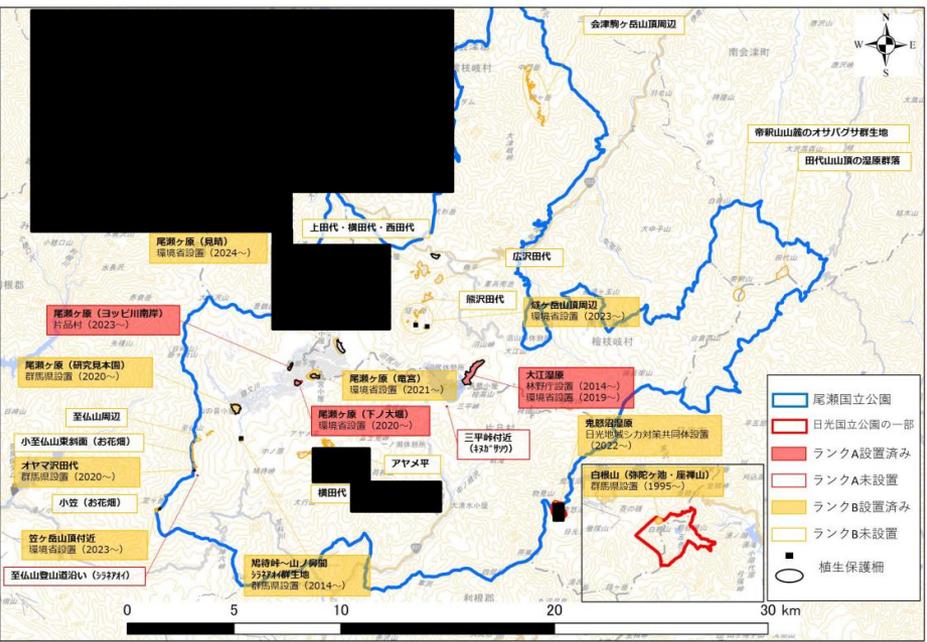
<https://www.env.go.jp/park/content/000317920.pdf>

# 尾瀬及び日光国立公園内の植生保護柵

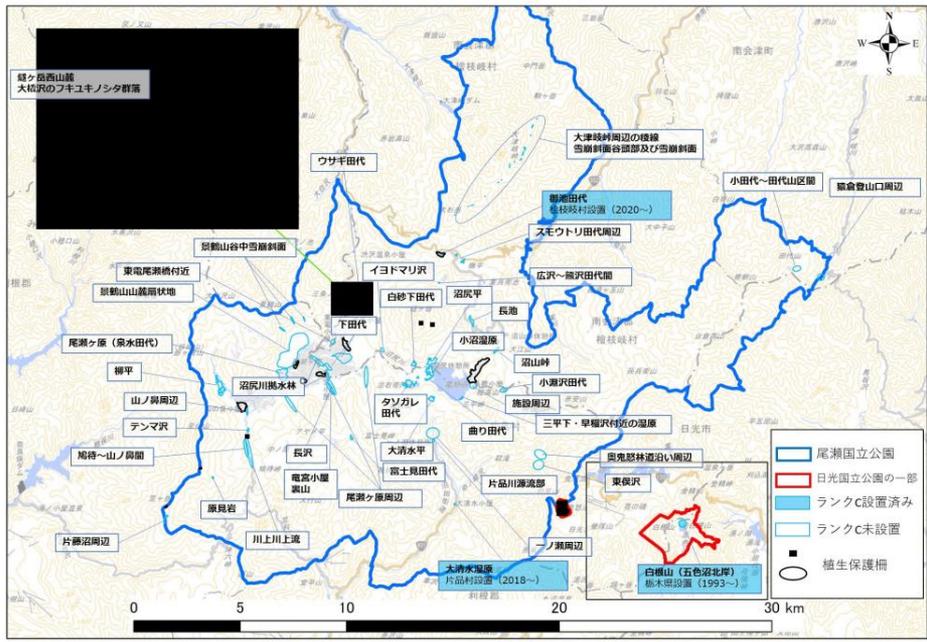
## 2025優先防護エリア

## 柵設置済み箇所

ランクA	11か所	7か所
ランクB	20か所	7か所
ランクC	43か所	3か所



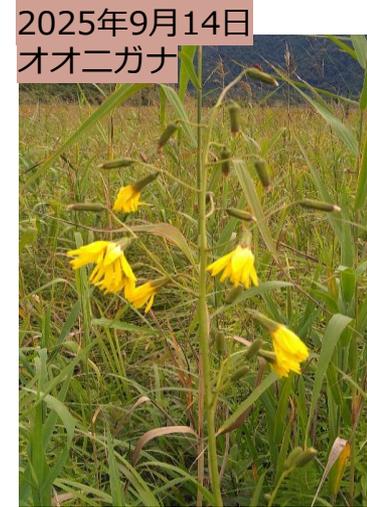
優先防護エリアのランクと植生保護柵設置状況 (ランクA及びB)



優先防護エリアのランクと植生保護柵設置状況 (ランクC)

# 尾瀬国立公園の植生保護柵の効果（尾瀬ヶ原（見晴））

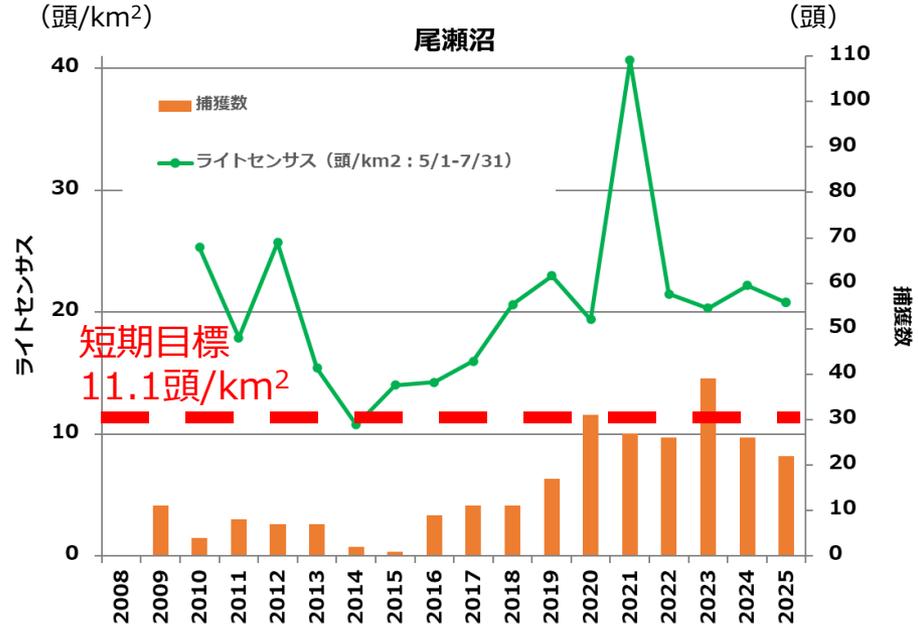
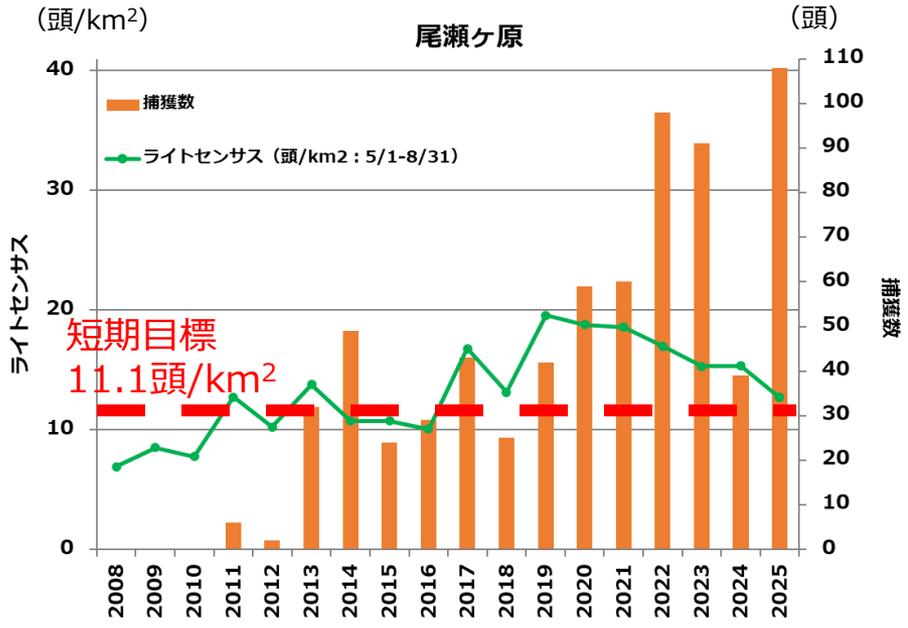
- 設置年度はR6であるが、運用はR7年度から
- 運用初年度であるが、タヌキランやリュウキンカ、コオニユリの保護及び植生回復が確認できた
- ミツガシワ、ヤナギトラノオ、オオニガナ等についても、数は少ないものの開花等が確認され今後の植生回復が期待される



# 環境省における尾瀬国立公園内の捕獲実績

(単位：頭)

実施主体	主な捕獲場所	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
環境省 (指定管理・有害捕獲事業)	尾瀬ヶ原、尾瀬沼、大江湿原周辺	59	90	87	124	130	62	130



# 尾瀬国立公園内の植生被害状況（採食状況調査の結果）

- 採食状況調査の結果、採食度は湿原や林縁は尾瀬ヶ原は減少傾向だが、その他のエリアは減少傾向から増加傾向に転じた。高山や森林はエリアにより傾向異なる※
  - 大江湿原は植生保護柵や捕獲対策の成果もあるが、採食植物の矮小化や個体数減少も反映されている
  - 2024（令和6）年度採食が確認された種は295種 R5年度より3種増加し、新たに採食が確認された種は16種
- ※調査方法から被害の減少は回復ではなくピークアウトも反映している性質がある 経年の被害の動向から今後の拡大が危惧される場所を反映している

## ■ 湿原及び林縁・森林における被害の変化



### 凡例

- 採食度
- 0
  - 1-5
  - 6-15
  - 16-25
  - 26-50
  - 51-85
  - 86以上



### ■ 採食状況調査

- 調査ルート上において、
- 採食された種の記録（種名、被害部位、位置）
  - 採食度の記録 ①+②
- ① P：群生して生育  
② S：単生または疎らに生育
- 採食量：5段階評価

- 例) P1（群生で少し採食）  
S3（単生で半分採食）

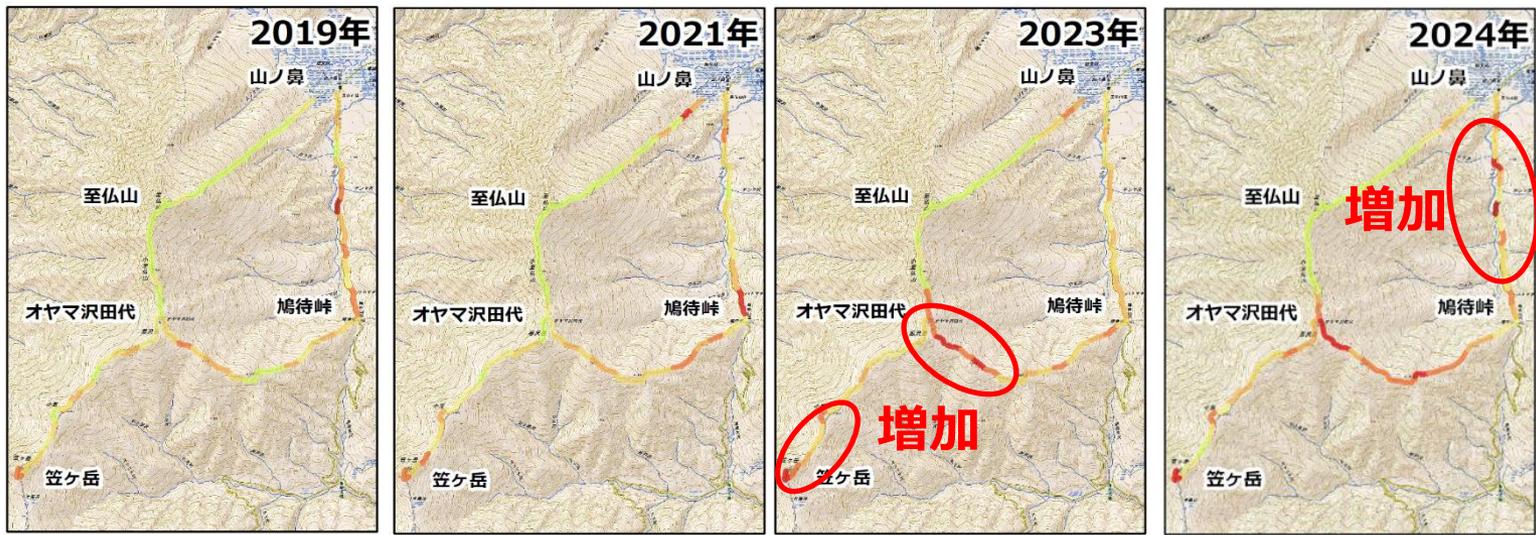
### ■ 採食度に対する配点

採食量	P(群生)	S(単生)
1	1点	1点
2	2点	1点
3	4点	1点
4	7点	1点
5	10点	1点

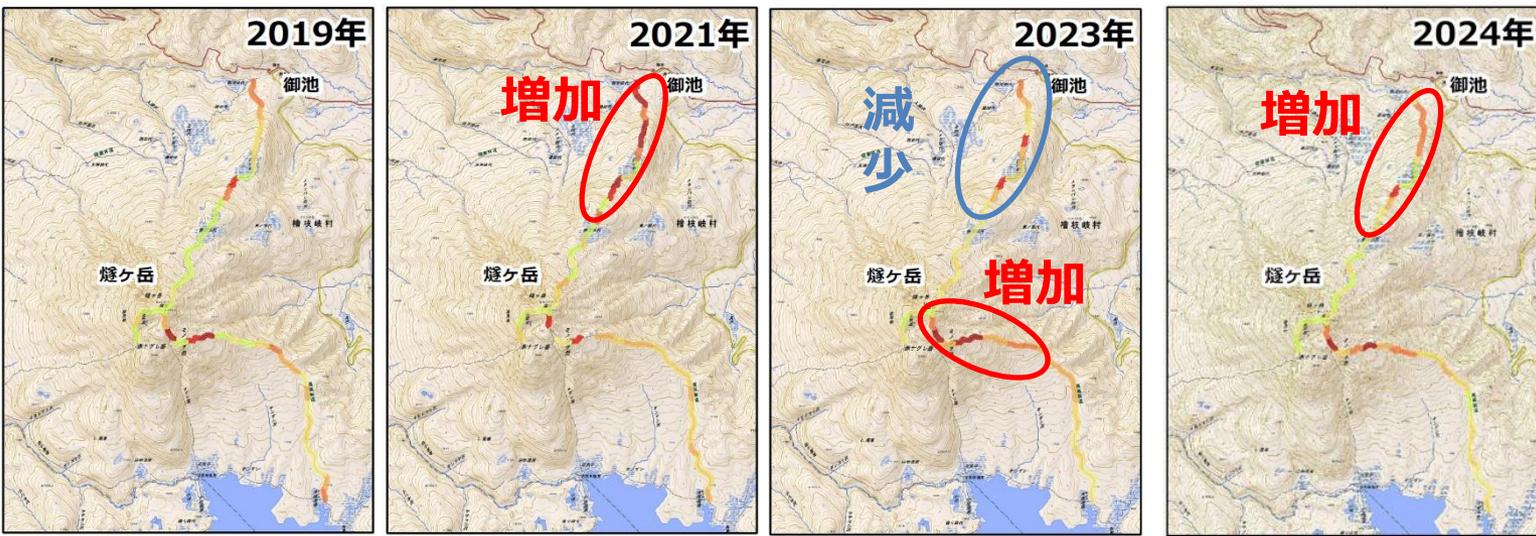
# 尾瀬国立公園内の植生被害状況 (採食状況調査の結果)

## ■高山・森林における被害の変化

### ○至仏山・笠ヶ岳



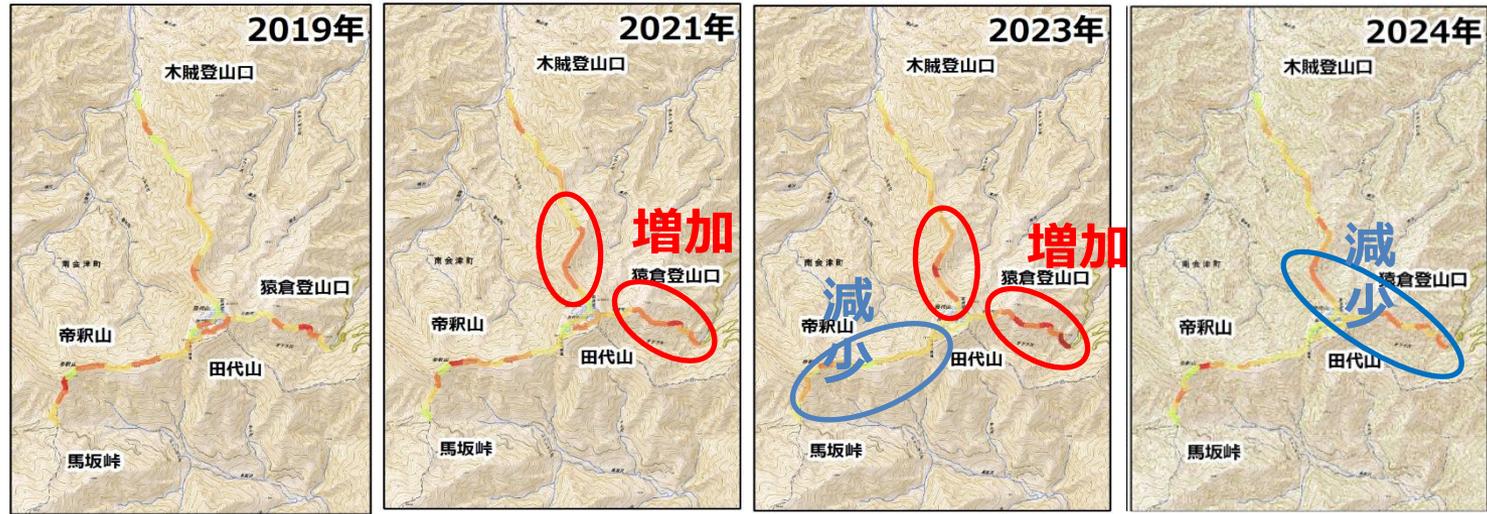
### ○燧ヶ岳



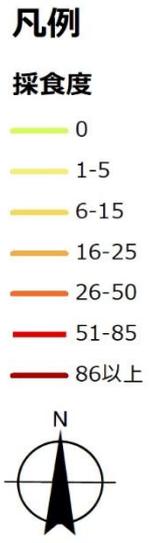
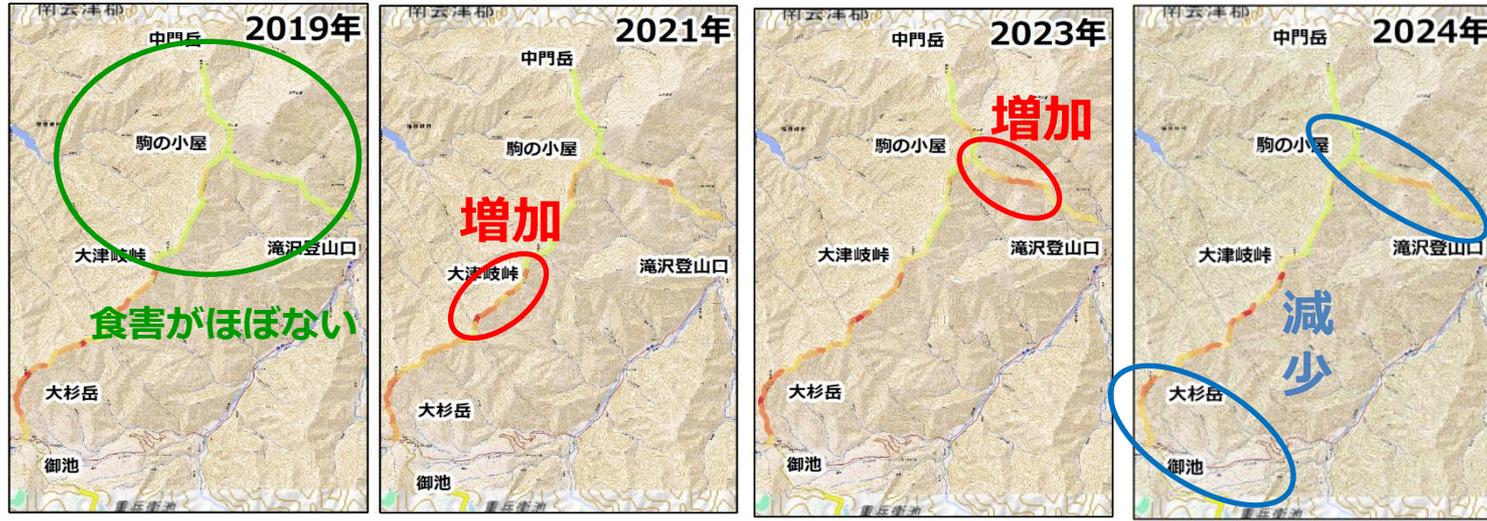
# 尾瀬国立公園内の植生被害状況（採食状況調査の結果）

## ■高山・森林における被害の変化

### ○田代山・帝釈山



### ○会津駒ヶ岳



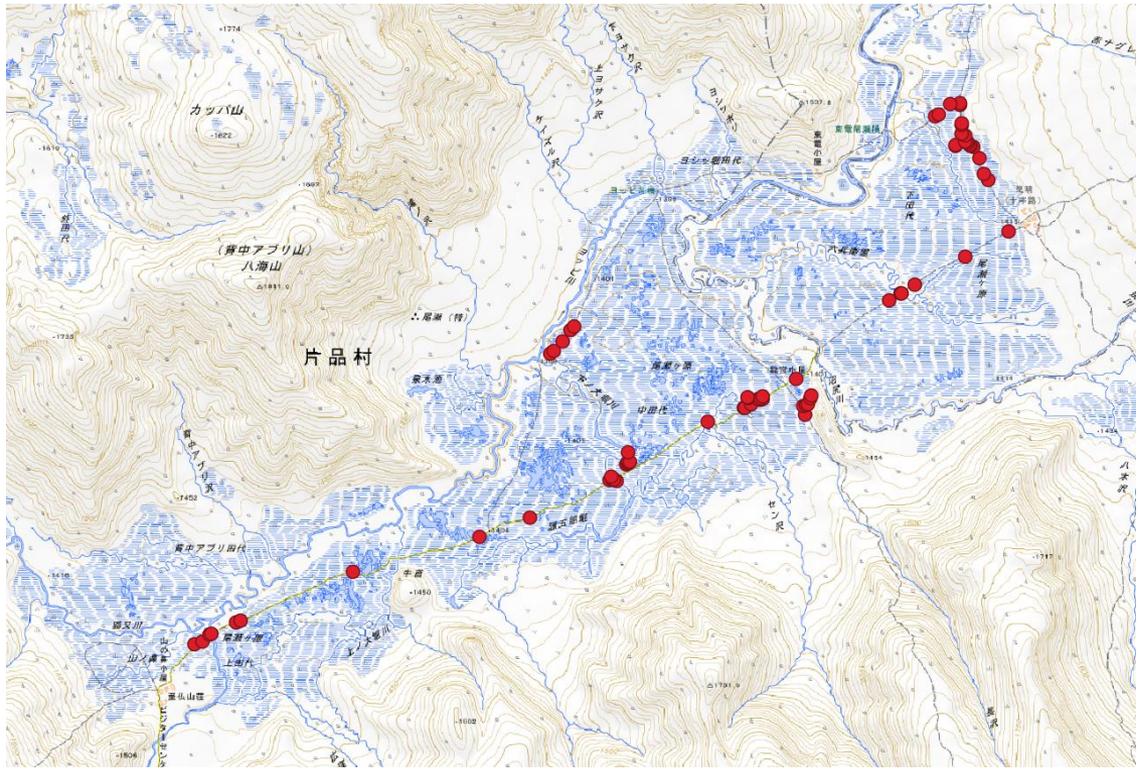
# 2025対策方針に基づいた植生調査

今年度は以下のとおり植生調査を実施し、2025対策方針に基づいた植生調査手法を検討

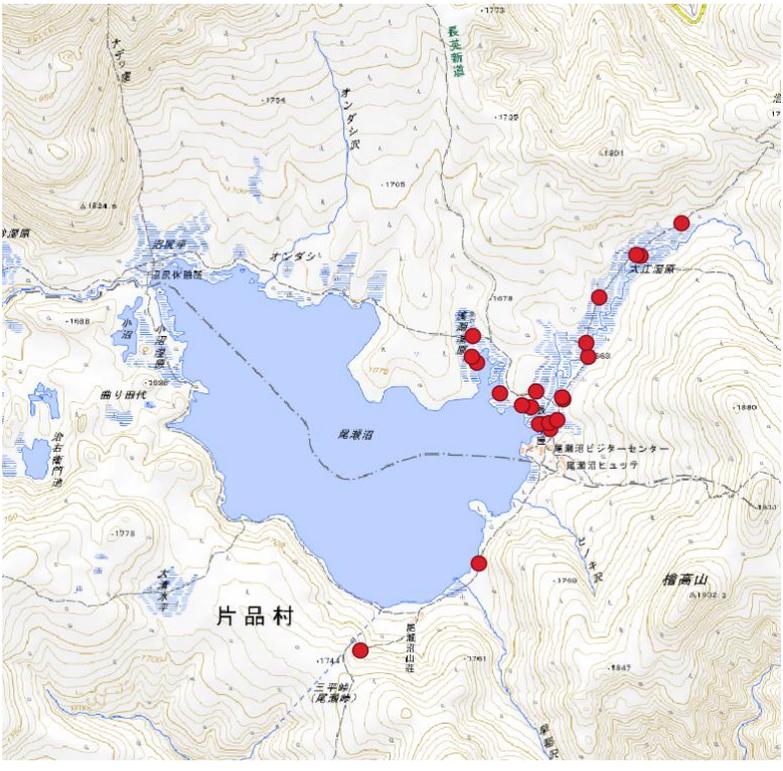
- ・ 調査地点：98地点（このうち植生保護柵外で53地点）
- ・ 調査種：36種
- ・ 調査項目：被覆率、株数、草丈、花数等

※その他、高山域において27地点  
※来年度以降もこの内容で実施予定であるが、調査地点及び調査種等については、今後変更する可能性あり

【尾瀬ヶ原】



【尾瀬沼】



**尾瀬国立公園 / 新たな利用者負担による公園維持管理手法等の検討実証  
ぐんま尾瀬入域協力金実証実験（案）について**

---

# 1 群馬県の課題感と解決策の提案

## 【現状】

- ・二ホンジカや気候変動等による自然環境の変化に加え、木道など利用施設の老朽化が問題となっている。
- ・入山者の減少や経営者の高齢化に伴い、遭難救助や登山道整備の現場で重要な公益的機能を果たしてきた山小屋などの経営状況が厳しくなっている。
- ・少子高齢化や人口減少等の社会経済状況の変化による国や自治体の財政状況は厳しさを増している。

## 【課題】

- ・自然保護と利用環境維持のための**財源不足**
- ・財源不足による整備不足を要因とした**魅力低下**

## 【解決策の提案】

- ・**新たな利用者負担**（任意の協力金）により利用者が**保護・管理**に協力する仕組みづくり

## （一例）群馬県が管理する歩道施設の現状 【R5-6群馬県実態調査による試算】

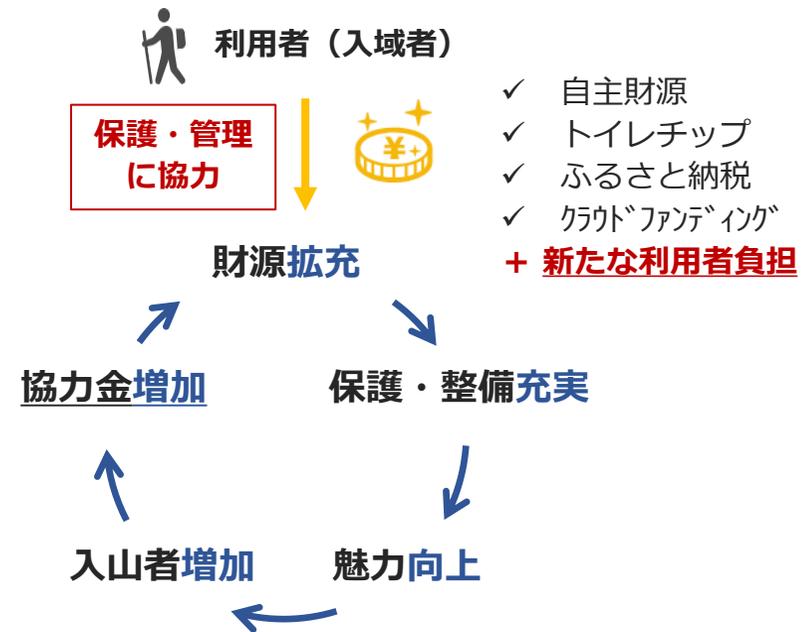
歩道施設の距離等から再整備に必要な今後の費用を試算



※1 工夫による削減とは、利用状況を踏まえた歩道施設の撤去や単線化等のこと。

※2 歩道施設の再整備費用は1mあたり20万円、耐用年数10年として試算。

## 新たな利用者負担でめざす好循環



## （目的）尾瀬国立公園の活性化

- ・保護と利用の好循環の実現 = 楽しむほどに守られる
- ・みんなの尾瀬をみんなで守る意識醸成

## 2 検討及び実証実験のスケジュール

2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10) 以降
<p><b>群馬県</b></p> <p>《提案》 新たな利用者負担による公園維持管理手法の導入検討</p>	<p><b>群馬県・関係者</b> × <b>環境省</b> × <b>公園関係者</b></p> <p>試行方法等の検討</p>	<p><b>群馬県・関係者</b> × <b>環境省</b></p> <p>群馬県側で実証実験（試行） 課題抽出・分析 最適化</p>	<p><b>群馬県・関係者</b> × <b>環境省</b> × <b>公園関係者</b></p> <p>試行結果検証・協力金制度検討 【尾瀬国立公園協議会等で情報共有】</p>	<p>《提案》 群馬県側での実証実験結果等を踏まえ、尾瀬国立公園協議会に改めて提案予定</p>
<p>実証実験の進め方</p>	<p><b>基礎調査</b></p> <p>利用者アンケート調査 (R7.8月・回収率37.9%)</p> <p>先行事例調査 (資料収集・ヒアリング)</p> <p><b>会議開催</b></p> <p>群馬県尾瀬入域協力金等検討会義 (制度設計等)</p> <p>群馬県尾瀬入域協力金等検討に係る連絡調整会議 (情報共有・意見交換)</p>	<p><b>実証実験 (1年目)</b></p> <p>基礎的な事項の実証 (協力率, 収受方法, IT等)</p> <p>期間限定 (短期)</p> <p>趣旨・制度の周知広報 (利用者の理解促進)</p> <p><b>会議開催</b></p> <p>検討会議・連絡調整会議を継続 (制度改善・意見交換)</p>	<p><b>実証実験 (2年目)</b></p> <p>制度改善のための諸課題解決を重視した実証 (協力率向上, IT改善等)</p> <p>期間拡大 (長期)</p> <p>収受主体による協力金の管理・分配機能の実証</p> <p><b>会議開催</b></p> <p>検討会議・連絡調整会議を継続 (制度改善・意見交換)</p>	

# 3 ぐんま尾瀬入域協力金について

令和7年3月10日の第23回尾瀬国立公園協議会において群馬県から提案している「尾瀬国立公園全体での新たな利用者負担制度の導入」について検討するために、群馬県が実証しようとする制度を「ぐんま尾瀬入域協力金」とし、概要を次のとおりとする。

## 1. 理念と目的

- ・群馬県尾瀬憲章の理念をふまえ、尾瀬を後世に引き継ぐため、保護と利用の好循環（楽しむほどに守られる）を実現する。
- ・みんなの尾瀬をみんなで守る意識醸成を図るとともに、特定主体だけでなく、利用者も財源を負担する管理運営体制を構築する。

## 2. 制度

任意の協力金

## 3. 対象者

尾瀬国立公園群馬県域から入域する利用者とする。ただし、福島県域から群馬県域に出域する利用者の協力も受け付ける。

## 4. 協力金額・收受方法

実証実験等を踏まえて協力金額の目安や收受方法を検討する。

## 5. 充当範囲・使途

尾瀬国立公園群馬県域で実施される木道の維持管理、登山道整備、自然景観の保全（二ホンジカ対策を含む）を基本とする。

## 6. 管理運営体制

收受主体として任意団体を設置する。

## 4 令和8年度実証実験計画（案）について

期 間：第1回実証実験（有人：収受員を配置）  
(想 定) 8月10日(月)～19日(水)の計10日間（1日8時間程度）

第2回実証実験（無人：収受箱を設置）  
9月11日(金)～20日(日)の計10日間（24時間）

場 所：①鳩待峠「道標付近」 ②大清水「第2売店前」

協力金額：500円/口（目安） ※協力者には協力者証を配布（第2回は設置式）

除外対象：子ども（中学生以下）、管理者等

方 法：現金及びキャッシュレス決済

収受試算：約329万円 ※入金手数料等を除いた額が最終的な収受額

実施主体：ぐんま尾瀬入域協力金実証実験協議会（仮）【事務局：群馬県】



①鳩待峠「道標付近」



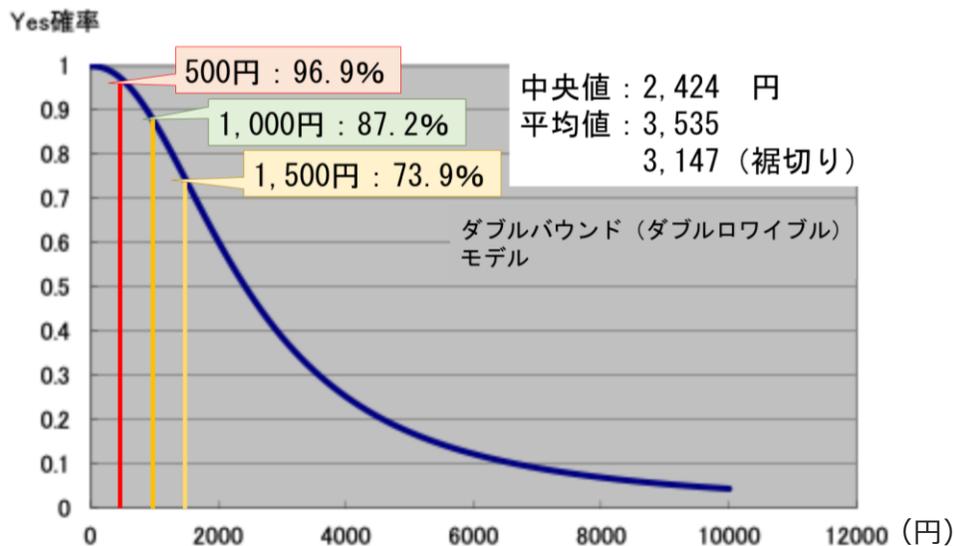
②大清水「第2売店前」

# ■ 目安とする協力金額の設定について

検討のスタートとして、令和8年度は高い協力率かつ影響が小さいことが想定される「500円」を目安とする協力金額に設定する。

① R7利用者アンケート結果（回収率約37.9%）では、協力金制度の導入自体は「賛成（95.4%）」と非常に好意的に捉えられていた。

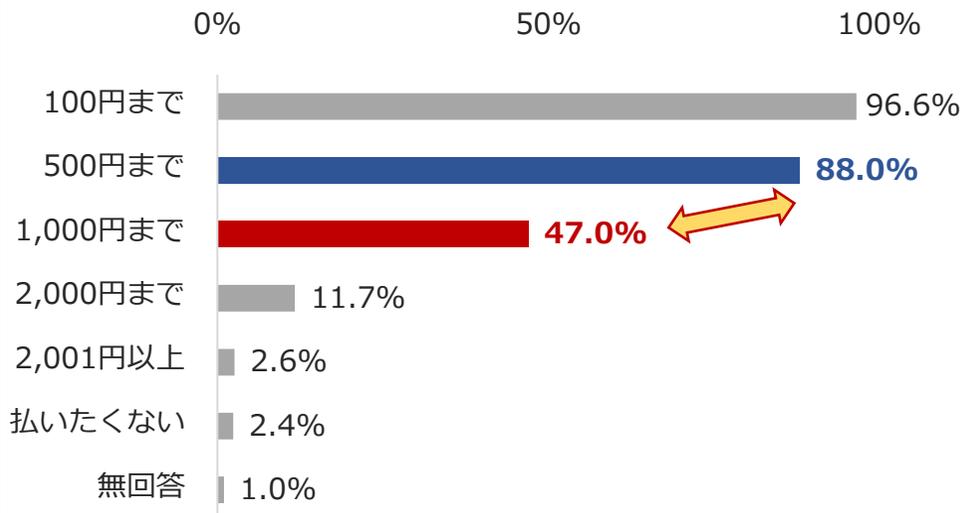
② R7利用者アンケート結果では高い支払い意思額【有識者の評価】尾瀬は他地域の平均より高い印象



尾瀬保全のための協力金 支払意思額曲線 (N=540)  
※群馬県尾瀬保全のための協力金に関するアンケート調査 (群馬県, 2025)

③ 国立公園に関する世論調査（内閣府,2024）での相場感は500円

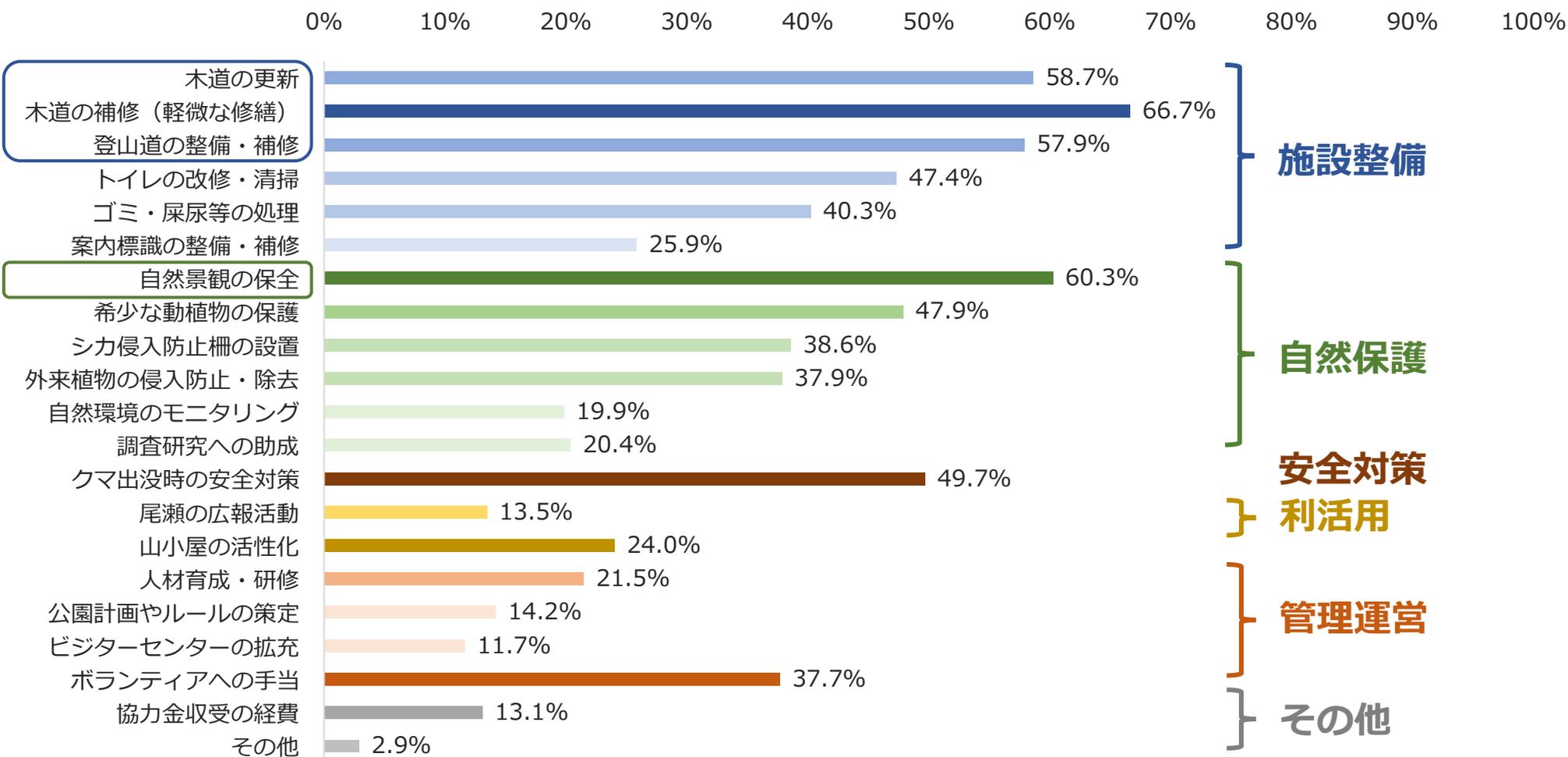
問：国立公園の登山道やトイレなどの公園施設を適切に管理するため、国立公園に入る際に入域料を支払わなければならないとします。あなたは、1人あたりいくらまでなら支払えると思いますか。



※国立公園に関する世論調査（内閣府, 2024）の元データを再集計。

## ■ 協力金の充当範囲・使途の想定について

- 尾瀬国立公園群馬県域で実施される木道の維持管理、登山道整備、自然景観の保全（二ホンジカ対策を含む）を基本として検討する。
- 收受事務の効率化・透明性確保を図ったうえで、協力金收受・管理等に係る経費にも充当するが、令和8年度実証実験においては、協力金收受・管理等に係る経費には充当しない。



尾瀬保全のための協力金の希望する使い道（N=549,複数回答）

※群馬県尾瀬保全のための協力金に関するアンケート調査（群馬県, 2025）

# 5 ぐんま尾瀬入域協力金実証実験協議会（仮）について

- 協力金の**收受主体**として次の事務及び事業を行うため、ぐんま尾瀬入域協力金実証実験協議会（仮）を設置する。
  - ・ぐんま尾瀬入域協力金の收受、管理（透明性確保）
  - ・実証実験にかかる情報発信、周知広報
  - ・ぐんま尾瀬入域協力金を活用した事業計画の策定（使途や分配方法を検討し決定）
  - ・事業計画に基づく事業（木道の維持管理、登山道整備、自然景観の保全（シカ対策を含む）等）の実施、報告

## 協議会構成員

- 行政機関・管理者
- 尾瀬で保全及び維持管理活動を実施する団体
- 有識者、オブザーバー

等を想定

## 全体のスキーム



## 6 令和8年度実証実験における評価検証項目（案）

### 1. 協力率の把握

収受方法（有人・無人）ごとに、実際の協力率を把握

### 2. 協力金導入による影響

#### ① 利用者の意識調査

アンケート調査等の実施

#### ② トイレチップの変化（利用者負担を導入している既存制度）

#### ③ 尾瀬国立公園の利用状況

来園者数の動向等を公表資料やヒアリング等を通して把握

### 3. 収受事務コストの確認、収受主体の機能検証

収受主体が協力金を適正に管理し活用するための運営体制、持続可能な制度設計に必要な改善策を検討